

長崎県埋蔵文化財調査年報 32

[令和 5 年度調査分]

2024

長崎県教育委員会

はじめに

長崎県には先人たちの残した3,800か所を超える遺跡(埋蔵文化財)があります。こうした埋蔵文化財は地域の歴史を物語り、町づくりや人づくりに活用できる国民共有の財産です。私たちはこれら先人から受け継いだ貴重な文化財を適切に保存・活用し、後世の人々に伝えていく責務があります。

長崎県教育委員会では、国・県の公共事業に伴う開発が行われる際には事前に予備調査を行いながら開発部局との協議を行って埋蔵文化財の保護を図り、その結果やむを得ず保護できない場合においては記録保存のための発掘調査を実施しています。

令和5年度は早岐川河川改修工事に伴う本調査や島原道路建設に伴う本調査及び試掘確認調査を行いました。また、今後進みつつある海洋開発に備えるための水中遺跡分布調査や、国境に接する離島地域(壱岐・対馬・五島地域)の遺跡の魅力を再発見することを目的とした内容確認調査、蒙古襲来から750年を節目として事業を立ち上げた元寇関連遺跡の発掘調査を実施しました。

本書は、令和5年度に長崎県教育委員会及び埋蔵文化財センターが行った全ての発掘調査の概要や調査研究、遺物の保存処理、展示、普及啓発などの事業概要について掲載しております。本書が県民の皆様の地域の歴史や文化への理解の一助になれば幸いです。

令和6年11月

長崎県教育委員会

教育長 前川謙介

例 言

- 1 本書は長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と長崎県教育委員会が令和5年度に実施した発掘調査の概要を収録したものである。
- 2 調査遺跡名の【 】内は長崎県教育委員会独自の遺跡調査番号である。
- 3 調査概要の調査地位位置図等は長崎県教育庁学芸文化課のウェブコンテンツ『長崎県遺跡地図』を使用している。
- 4 IVについては各遺跡の調査担当者と調査概要の執筆者を文末に記している。
- 5 本書の編集は長崎県埋蔵文化財センター 久保田由佳 が行った。

本文目次

I. 長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状	1
1. 県が実施した発掘調査の現状	1
2. 市町が実施した発掘調査の現状	1
II. 本県が主催する文化財保護に関する研修事業	5
1. 長崎県文化財保護行政主管課長会議・担当者会議	5
2. 開発部局・文化財保護部局担当者埋蔵文化財基礎研修	5
3. 埋蔵文化財担当者専門技術研修	6
III. 長崎県埋蔵文化財センターの事業	7
1. 東アジア考古学研究事業	7
(1) 発掘調査事業	7
(2) 巡回遺跡展・講演会の開催	7
(3) 東アジア諸国の研究機関との連携	8
(4) 長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第14号の刊行	9
2. 保存処理事業	9
3. 水中文化遺産保存活用推進事業	11
(1) 県内水中遺跡の分布調査	11
(2) 水中文化遺産の担い手育成(体験講座)	12
4. 元寇関連保存・活用事業	12
(1) 発掘調査	13
(2) シンポジウム	13
5. 教育普及事業	14
(1) オープン収蔵展示	14

(2) 情報誌	15
(3) ホームページおよび Facebook の公開更新	15
(4) 体験学習	15
(5) バックヤードツアー	15
(6) 資料貸出・閲覧・掲載許可	15
(7) 長崎県立志岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース」支援	16
(8) 長崎県内の離島地域における高校生を中心とした授業支援	17
(9) 学校教育支援「埋文MAIBUN学びのサポート」	17
(10) インターンシップ受け入れ	17
(11) 現地説明会	18
(12) 地元説明会	18
IV. 令和5年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要	20
1. 相津遺跡（範囲確認）【202301】	20
2. 祝言島遺跡（隣接地）（分布調査）【202302】	21
3. 早岐瀬戸遺跡（本調査）【202303】	22
4. 北ノ園遺跡（本調査）【202304】	23
5. 下原第1遺跡（仮）・下原第2遺跡（仮）、櫻根第1遺跡（仮）・櫻根第2遺跡（仮）（試掘調査） 【202305・202306・202307・202308】	24
6. 文永の役新城古戦場（種詰城跡）（範囲確認）【202309】	26
7. 上岡遺跡（本調査）【202310】	27
8. 文永の役新城古戦場（範囲確認）【202311】	28
9. 文永の役唐人原古戦場（仮）（試掘調査）【202312】	29
10. スルヘノクチ遺跡（試掘・範囲確認）【202314】	30
11. 稗田原遺跡（範囲確認）【202315】	31
12. 間繰遺跡（原の辻遺跡）（範囲確認）【202318】	32
13. 上熊崎遺跡（本調査）【202319】	33
14. 水中遺跡分布調査【202323】	34
15. 上原遺跡（隣接地）（試掘調査）【202324】	35
16. 島原道路関係試掘・範囲確認調査	36
(報告書抄録)	

I. 長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状

1. 県が実施した発掘調査の現状

令和5年度における開発に伴う発掘調査では、4件の本調査と20件の範囲確認調査及び試掘調査を実施した。

6か年計画の5年目となる佐世保市早岐瀬戸遺跡の調査では、平戸往還跡を含む複数の道路跡や上水遺構等の近世町屋を形成する遺構群及び埋立地業跡が検出された。さらに下層では、埋立以前の多数のピット群、縄文・弥生時代の遺物が出土した。遺構密度もさることながら、5か年度分の出土遺物の総数は2,400箱を超える。

島原半島では、島原道路建設における出平有明・有明瑞穂・瑞穂吾妻の3区間のうち、用地取得の進捗に合わせ、予備調査を含めた発掘調査を平成30年度から実施してきた。このうち出平有明バイパス区間は昨年度で調査が完了し、現在は瑞穂吾妻バイパス区間に順次着手している。

令和5年度は、瑞穂吾妻バイパス区間で雲仙市内の3遺跡（北ノ園遺跡・上岡遺跡・上熊崎遺跡）の本調査を実施した。北ノ園遺跡では石積護岸を有する中世の流路跡や畝状遺構、時代不明のドングリピットが検出された。石積の裏込め及び根石下から石鍋や貿易陶磁器が出土した。上岡遺跡では縄文時代早期の土器・石器が出土し、黒曜石製剥片・石核の集中地点が検出された。上熊崎遺跡では遺構は検出されなかったが縄文時代から中世の遺物が出土した。黒曜石や安山岩の剥片、縄文時代早期・後晩期の土器、弥生時代末から古墳時代の土器、龍泉窯青磁碗や景徳鎮窯青花碗等が見られた。

上記の内容を含め、県が令和5年度に実施した国・県の公共事業に伴う調査は以下のとおりである。

【県事業】

- ・早岐川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（早岐瀬戸遺跡）
- ・島原道路（瑞穂吾妻バイパス）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（北ノ園遺跡、他）
- ・島原道路（出平有明バイパス）建設工事に伴う埋蔵文化財範囲確認調査及び試掘調査（灰ノ久保遺跡）
- ・島原道路（有明瑞穂バイパス）建設工事に伴う埋蔵文化財範囲確認調査及び試掘調査（弥左エ門高野遺跡（仮））
- ・島原道路（瑞穂吾妻バイパス）建設工事に伴う埋蔵文化財範囲確認調査及び試掘調査（倉子遺跡、他）

2. 市町が実施した発掘調査の現状

令和5年度は県内市町において、7件の本調査と76件の試掘・範囲確認調査が実施された。

佐世保市では、道路工事に伴い黒岩遺跡の本調査が実施され、地表下約40cmから旧石器～縄文時代と考えられる遺構や遺物包含層が確認された。遺構では礫群と考えられる焼礫・赤色化礫の集中部が1基検出されている。遺物では、黒曜石・安山岩の台形石器・礫器・削器が礫群の検出面と同じ層で面的に出土しており、土器は一片も出土していない。

松浦市の中ノ瀬遺跡では市道改良工事に伴う本調査が実施され、良好な遺物包含層および中世に属するとみられる100基以上の柱穴・土坑・炉跡・礫群、弥生時代の小児用甕棺墓1基が検出された。

遺物では、龍泉窯系及び同安窯系青磁・白磁・高麗青磁象嵌・褐釉陶器・須恵器・土師器・弥生土器や、滑石製石鍋・土製品・石製品・鉄製品・銅銭、安山岩や黒曜石の石器及び剥片等、旧石器時代～中世までの幅広い時期の遺物が出土した。

雲仙市の内屋敷遺跡では農業基盤整備事業に伴う本調査が実施された。遺構では、縄文時代早期の集石遺構9基、室町時代頃の土坑墓170基以上、近世と考えられる柱穴1基が検出された。中世の土坑墓内では、人骨や土師皿・鉄刀とみられる鉄製品・五輪塔の部材が出土した。遺物では、縄文時代早期の押型文土器や黒曜石剥片、縄文時代晩期の組織痕土器や小型の磨製石斧・石鏃等が出土している。

南島原市の水打場遺跡では農業基盤整備事業に伴う本調査が実施された。弥生時代後期の溝・土坑・柱穴が検出され、縄文時代後晩期の土器・石器や弥生時代後期の土器等、約4,400点の遺物が出土した。

令和5年度 長崎県における発掘調査の履歴 (1)

遺跡名	遺跡所在地	調査主体	調査開始日	調査終了日	調査原因	調査種別	調査面積 (㎡)	備考
相洋遺跡	小島賀町	県(理文)	2023/5/23	2023/6/9	保存目的	確認	29.0	SUJ202301
尻吉島遺跡	新上五島町	県(理文)	2023/6/15	2023/6/15	池田の設置	分布調査	1250.0	SGJ202302
早岐瀬戸遺跡	佐世保市	県(理文)	2023/7/10	2024/3/22	河川	本調査	1019.0	HAS202303
北ノ瀬遺跡	雲仙市	県(理文)	2023/7/31	2024/2/29	道路	本調査	1450.0	KTJ202304
下原第1遺跡(仮)	対馬市	県(理文)	2023/6/19	2023/7/14	保存目的	試掘	16.0	SMI202305
下原第2遺跡(仮)	対馬市	県(理文)	2023/6/19	2023/7/14	保存目的	試掘	8.0	SMI202306
裡根第1遺跡(仮)	対馬市	県(理文)	2023/6/19	2023/7/14	保存目的	試掘	8.0	KSJ202307
裡根第2遺跡(仮)	対馬市	県(理文)	2023/6/19	2023/7/14	保存目的	試掘	8.0	KSJ202308
樋田城跡	雲仙市	県(理文)	2023/7/18	2023/8/8	保存目的	確認	56.0	HTJ202309
上河遺跡	雲仙市	県(理文)	2023/8/21	2023/10/16	道路	本調査	713.0	OKA202310
文木の役所城古戦場	雲仙市	県(理文)	2023/7/20	2023/8/10	保存目的	確認	8.0	SJK202311
文木の役所原原古戦場(仮)	雲仙市	県(理文)	2023/7/20	2023/8/10	保存目的	試掘	12.0	TJB202312
平野高野遺跡(仮)	雲仙市	県(理文)	2023/9/11	2023/10/16	道路	試掘	24.0	HNK202313
スルヘノ子遺跡	対馬市	県(理文)	2023/9/25	2023/10/13	保存目的	試掘・確認	40.0	NHK202314
陣田原遺跡	島原市	県(理文)	2023/10/3	2023/10/17	道路	確認	16.0	HDH202315
樋ノ迫遺跡	雲仙市	県(理文)	2023/11/1	2023/11/17	道路	試掘	19.0	TNS202316
迫遺跡(仮)	雲仙市	県(理文)	2023/11/20	2023/12/19	道路	試掘	15.0	SKG202317
四津遺跡	雲仙市	県(理文)	2023/11/27	2023/12/26	保存目的	確認	60.0	MYK202318
上無崎遺跡	雲仙市	県(理文)	2023/12/15	2024/3/29	道路	本調査	488.0	KAM202319
弥左エ門高野遺跡	島原市	県(理文)	2024/1/24	2024/2/1	道路	試掘	18.0	YMG202320
長尾依道跡(仮)	雲仙市	県(理文)	2024/2/9	2024/2/26	道路	試掘	9.0	NOS202321
倉子遺跡	雲仙市	県(理文)	2024/2/9	2024/3/14	道路	確認	63.0	KRK202322
水中遺跡分布調査	長崎市・平戸市・松浦市	県(理文)	-	-	-	分布調査	-	UWS202323
上原遺跡(隣接地)	新上五島町	県(理文)	2024/2/26	2024/3/7	道路	試掘	25.0	UEH202324
雲宮遺跡隣接地	雲仙市	県(理文)	2024/3/1	2024/3/27	道路	試掘	12.0	OTM202325
尻ノ久保遺跡	島原市	県(理文)	2024/3/12	2024/3/22	道路	確認	12.0	HNK202326
桜馬場遺跡	長崎市	長崎市	2023/7/24	2023/8/29	学校建設	試掘	16.0	
長崎遺跡	長崎市	長崎市	2023/8/28	2023/9/20	道路	確認	12.0	
長崎原遺跡(旧長崎市南中学校校舎)	長崎市	長崎市	2023/11/11	2024/2/29	保存目的	確認	725.8	
長崎原遺跡(旧長崎医科大学)	長崎市	大学	2023/12/23	2024/2/22	学校建設	本調査	870.0	
横子久原遺跡	佐世保市	佐世保市	2023/6/12	2023/10/13	農業基盤整備事業(農道等を含む)	確認	94.5	
西泊遺跡(隣接地)	佐世保市	個人	2023/7/27	2023/8/4	その他開発	試掘	10.4	
馬舟遺跡	佐世保市	佐世保市	2023/8/1	2023/9/7	宅地造成	本調査	66.0	
コロノ遺跡	佐世保市	個人	2023/12/18	2023/12/20	その他開発	確認	4.3	
宮の本道跡	佐世保市	佐世保市	2024/2/29	2024/3/15	保存目的	確認	13.0	
直谷岩陰遺跡群	佐世保市	佐世保市	2024/2/20	2024/3/11	その他開発	確認	8.0	
早岐瀬戸遺跡	佐世保市	佐世保市	2023/3/22	2023/3/29	その他建物	確認	8.0	
長崎鼻道隣接地	佐世保市	佐世保市	2023/9/26	2023/9/28	農業基盤整備事業(農道等を含む)	試掘・確認	6.8	
竹道A遺跡	佐世保市	佐世保市	2024/2/5	2024/2/8	宅地造成	確認	10.5	
新田道隣接地	佐世保市	佐世保市	2024/2/5	2024/2/9	ガス・電気・水道	試掘・確認	10.0	
樋ノ迫遺跡	佐世保市	佐世保市	2023/5/15	2023/5/16	個人住宅	確認	8.0	
竹道ノ遺跡	佐世保市	佐世保市	2023/12/6	2024/12/8	個人住宅	試掘	4.0	
横子堀ノ内遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2023/12/12	2023/12/14	道路	試掘	5.0	
下原在高野遺跡	島原市	島原市	2023/7/4	2023/7/20	農業基盤整備事業(農道等を含む)	確認	3.6	
袖沢上遺跡	島原市	島原市	2023/7/4	2023/7/14	農業基盤整備事業(農道等を含む)	確認	4.0	
下原松木遺跡	島原市	島原市	2023/7/19	2023/7/21	農業基盤整備事業(農道等を含む)	確認	3.6	
上原高野遺跡	島原市	島原市	2023/7/21	2023/8/2	農業基盤整備事業(農道等を含む)	確認	3.6	
大野原遺跡	島原市	島原市	2023/7/28	2023/8/21	農業基盤整備事業(農道等を含む)	確認	3.6	
下宮遺跡	島原市	島原市	2023/11/13	2023/11/16	その他開発	確認	4.0	
小原下遺跡	島原市	島原市	2023/11/17	2023/11/24	個人住宅	確認	2.3	
東空宮城跡	島原市	島原市	2023/7/21	2023/7/24	農業基盤整備事業(農道等を含む)	確認	3.6	
大野原遺跡(隣接地)	島原市	島原市	2024/2/5	2024/2/9	その他開発	試掘	2.3	

令和5年度 長崎県における発掘調査の履歴(2)

遺跡名	遺跡所在地	調査主体	調査開始日	調査終了日	調査原因	調査種別	調査面積 (㎡)	備考
大神古墳	諫早市	諫早市	2023/10/18	2023/12/29	観光開発	発掘	2.7	
黒丸遺跡・沖田黒丸墓里跡	大村市	大村市	2023/8/21	2023/8/28	その他建物	試掘	64.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2023/5/9	2023/5/29	宅地造成	試掘	164.0	
竹松遺跡	大村市	大村市	2023/6/27	2024/7/13	住宅	試掘	19.2	
黒丸遺跡・沖田黒丸墓里跡	大村市	大村市	2023/6/6	2023/6/15	その他建物	発掘	18.0	
冷泉遺跡	大村市	大村市	2023/9/26	2023/9/29	宅地造成	試掘	73.0	
冷泉遺跡	大村市	大村市	2023/9/6	2023/10/5	宅地造成	試掘	200.0	
黒丸遺跡・沖田黒丸墓里跡	大村市	大村市	2023/10/17	2023/10/20	住宅	試掘	18.0	
黒丸遺跡・沖田黒丸墓里跡	大村市	大村市	2023/10/27	2023/11/8	住宅	試掘	18.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2024/1/11	2024/2/1	公園造成	試掘	200.0	
今富城跡	大村市	大村市	2024/2/13	2024/3/6	その他建物	試掘	25.8	
富の原遺跡	大村市	大村市	2024/3/13	2024/3/15	その他開発	試掘	20.0	
吹上原築立場遺跡	平戸市	平戸市	2023/7/13	2023/8/3	その他開発	発掘	24.0	
亀岡城跡	平戸市	平戸市	2023/10/2	2023/10/5	その他建物	発掘	10.0	
甲田原遺跡	平戸市	平戸市	2023/4/28	2023/5/12	宅地造成	発掘	12.0	
鷹島海底遺跡	松浦市	松浦市	2023/10/14	2023/10/29	保存目的	試掘	28.0	
中ノ瀬遺跡	松浦市	松浦市	2023/11/8	2024/3/29	道路	本調査	1140.0	
山田スルメ浦遺跡	壱岐市	壱岐市	2023/4/24	2023/6/30	保存目的	発掘	162.0	
赤田遺跡群	壱岐市	壱岐市	2023/7/1	2023/11/30	その他建物	発掘	96.0	
赤田遺跡群	壱岐市	壱岐市	2023/8/1	2023/11/30	その他建物	発掘	71.0	
赤田遺跡群	壱岐市	壱岐市	2023/12/1	2024/3/31	保存目的	試掘	39.5	
原の辻遺跡	壱岐市	壱岐市	2024/3/27	2024/3/27	その他開発	発掘	20.0	
久本木塚跡	五島市	大学	2023/8/16	2023/9/30	学術調査	発掘	20.0	
磯原古墳公園(未開闢)	西海市	大学	2023/7/8	2023/12/17	学術調査	試掘	40.0	
高火田遺跡(隣接地)	西海市	西海市	2023/7/25	2023/7/26	農業基盤整備事業(農道等を含む)	試掘	8.0	
元住遺跡(隣接地)	西海市	西海市	2024/12/4	2024/12/18	農業基盤整備事業(農道等を含む)	試掘	80.0	
内原敷遺跡	雲仙市	雲仙市	2023/4/13	2023/10/18	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	1150.0	
茂遺跡台	雲仙市	雲仙市	2023/4/24	2023/7/6	その他建物	試掘	47.0	
湯田川地区	雲仙市	雲仙市	2023/7/18	2023/7/20	農業基盤整備事業(農道等を含む)	試掘	2.0	
菟牧尾谷地区	雲仙市	雲仙市	2023/10/26	2024/1/31	農業基盤整備事業(農道等を含む)	試掘	30.0	
魚洗川田遺跡	雲仙市	雲仙市	2023/11/13	2024/3/21	農業基盤整備事業(農道等を含む)	試掘	48.0	
結城城跡(隣接地)	雲仙市	雲仙市	2024/2/16	2024/3/11	農業基盤整備事業(農道等を含む)	試掘	42.0	
丸尾古墳	雲仙市	雲仙市	2023/3/10	2023/3/13	その他建物	発掘	4.0	
百花台古-C遺跡	雲仙市	雲仙市	2023/4/19	2023/4/28	その他農家関係	発掘	4.0	
城ノ尻原遺跡	雲仙市	雲仙市	2023/6/20	2023/6/28	住宅	発掘	14.0	
城ノ尻原遺跡	雲仙市	雲仙市	2023/6/20	2023/6/28	住宅	発掘	14.0	
永中遺跡	雲仙市	雲仙市	2023/7/7	2023/7/24	その他建物	発掘	2.0	
西原遺跡	雲仙市	雲仙市	2023/9/1	2023/9/5	その他建物	発掘	2.0	
真正寺墓里跡	雲仙市	雲仙市	2023/9/7	2023/9/11	道路	発掘	2.0	
真正寺墓里跡	雲仙市	雲仙市	2023/9/28	2023/10/3	個人住宅	発掘	2.0	
五万長者屋敷遺跡	雲仙市	雲仙市	2023/11/6	2023/11/8	個人住宅	発掘	2.0	
山田泉里跡	雲仙市	雲仙市	2023/10/17	2023/10/19	その他建物	発掘	2.0	
瀬水遺跡	雲仙市	雲仙市	2023/12/18	2023/12/25	個人住宅	発掘	2.0	
山田泉里跡	雲仙市	雲仙市	2023/5/31	2023/6/15	住宅	発掘	12.0	
伊古遺跡	雲仙市	雲仙市	2024/2/8	2024/2/13	その他建物	発掘	6.0	
観音屋敷遺跡および隣接地	南島原市	南島原市	2023/4/10	2024/2/29	農業基盤整備事業(農道等を含む)	発掘	44.0	
尾崎遺跡および隣接地	南島原市	南島原市	2023/4/13	2023/4/28	宅地造成	発掘	12.0	
新切口遺跡	南島原市	南島原市	2023/5/8	2024/2/29	農業基盤整備事業(農道等を含む)	発掘	44.0	
上石原遺跡	南島原市	南島原市	2023/6/5	2024/2/29	農業基盤整備事業(農道等を含む)	発掘	32.0	
水打場遺跡	南島原市	南島原市	2023/6/10	2024/3/25	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	874.0	
権馬輪遺跡	南島原市	南島原市	2023/9/4	2023/10/6	河川	発掘	144.0	
水打場遺跡	南島原市	南島原市	2023/10/16	2024/3/25	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	1332.0	
本城原遺跡	南島原市	南島原市	2023/11/20	2024/2/29	農業基盤整備事業(農道等を含む)	発掘	40.0	
上原遺跡	南島原市	南島原市	2024/1/22	2024/3/1	その他開発	発掘	40.0	
水打場遺跡	南島原市	南島原市	2024/1/22	2024/9/30	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	607.0	
旧平戸藩押役所跡	小値賀町	小値賀町	2023/9/11	2023/12/7	保存目的	発掘	36.5	
狸山支石墓群(隣接地)	佐々町	佐々町	2023/5/19	2023/5/19	個人住宅	試掘	229.8	

令和5年度 県及び市町教委発行の埋蔵文化財発掘調査報告書等一覧

編集機関	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集数
長崎県埋蔵文化財センター	長崎県埋蔵文化財調査年報31	石原沢穴、杉山古墳(隣塚地)、太成寺遺跡(隣塚地)、早稲瀬戸遺跡、下用杣木遺跡、横沢上遺跡、横沢上遺跡(隣塚地)、寺中A遺跡、土間遺跡、西ノ敷遺跡、大内寺遺跡(仮)、ヌルヘノチ遺跡、北ノ園遺跡、菊野遺跡、豊川内遺跡(仮)、筑屋敷石塚(隣塚地)、上原遺跡(隣塚地)、阿城(夏峰城)跡、三ノ浜遺跡	長崎県埋蔵文化財71-調査報告書	48
	寺中A遺跡	寺中A遺跡		49
	下用杣木遺跡・横沢上遺跡	下用杣木遺跡、横沢上遺跡		50
長崎市教育委員会	八百屋町遺跡	八百屋町遺跡	—	
	島原海屋敷跡	島原海屋敷跡		
	善人屋敷跡	善人屋敷跡		
島原市教育委員会	島原市内遺跡範囲確認調査報告書3	西川遺跡、寺中城跡、寺中B遺跡、島原城跡、東空閑城跡、軍馬野遺跡、緑石原遺跡	島原市文化財調査報告書	22
諫早市経済交流部文化振興課	諫早市キリシタン関連遺跡等調査報告書	ジブの屋、ビッチの屋、山川内遺跡、千々石ミダゲ墓所、雁定地、伊木力屋所跡、伝「円満寺跡」の石塔群、葛城跡、西小瀬町意碑	諫早市文化財調査報告書	28
平戸市教育委員会	市内遺跡確認調査報告書	原田原遺跡、吹上巖立場遺跡、亀岡城跡	平戸市の文化財	79
松浦市教育委員会	松浦市内遺跡確認調査(7)	姫神社遺跡	松浦市文化財調査報告書	13
対馬市教育委員会	越前遺跡	越前遺跡	対馬市文化財調査報告書	13
壱岐市教育委員会	奉出遺跡群3次(野区・V区・W区) 串山ミルメ溝遺跡(2693地点)	奉出遺跡群、串山ミルメ溝遺跡	壱岐市文化財調査報告書	37
	百合畑14号溝 匠塚遺跡(673-1地点) 興輪遺跡(325-1地点) 源の辻遺跡(1317地点)	百合畑古墳群、匠塚遺跡、興輪遺跡、源の辻遺跡		38
南島原市教育委員会	常光寺前駅西側遺跡	常光寺前駅西側遺跡	南島原市文化財調査報告書	34
	北同金比羅祀遺跡	北同金比羅祀遺跡		35
	町村遺跡	町村遺跡		36
	二本榎遺跡	二本榎遺跡		37
小徳賀町教育委員会	沖ノ神塚神社	沖ノ神塚神社	小徳賀町文化財調査報告書	25

II. 本県が主催する文化財保護に関する研修事業

1. 長崎県文化財保護行政主管課長会議・担当者会議

目的 県及び市町文化財保護行政主管課長及び担当者に対し、文化財保護及び活用に関する新たな情報や専門的知識を習得する場を提供するとともに、県や市町の取組に関する現状と課題についての情報共有を行い、文化財保護行政の円滑な推進を図る。

期 日 令和5年7月6日（木）

会 場 長崎県農協会館7階 701・702 会議室

参加者 各市町文化財保護主管課長及び担当者

県関係各課長および担当者 計 36 名

内 容 (1) 挨拶

(2) 国民文化祭について

(3) 報告・説明等・事務連絡

①無形文化財・民俗文化財について（学芸文化課文化財班 川口洋平）

②史跡名勝天然記念物及び現状変更について（学芸文化課文化財班 中尾篤志）

③埋蔵文化財に係る事務について（学芸文化課文化財班 中野真澄）

④美術工芸品の管理と公開について（学芸文化課文化財班 久葉智代）

⑤博物館法改正について（学芸文化課文化財班 久葉智代）

⑥文化財関係補助制度について（学芸文化課文化財班 大谷光雄）

⑦財団助成金（メセナ）・表彰について（学芸文化課総務管理班 水田有祐）

(4) 協議・照会

(5) その他

(6) 閉会

2. 開発部局・文化財保護部局担当者埋蔵文化財基礎研修

目的 (1) 開発部局担当者の埋蔵文化財に対する保護意識の醸成を図り、その取扱について理解を深めることで、埋蔵文化財保護行政を円滑に推進する。

(2) 文化財主管課担当者に埋蔵文化財に係る基礎的な知識を習得する場を提供し、その保護に関する基本的な考え方や事務手続きなどへの理解を深める機会とする。

期 日 令和5年6月1日（木）～6月2日（金）

会 場 長崎県立長崎図書館郷土資料センター研修室

参加者 国・県及び市町開発部局担当者、県及び市町文化財担当者 合計 79 名

内 容 (1) 挨拶

(2) 埋蔵文化財基礎研修

①長崎県の埋蔵文化財とその保護制度（長崎県埋蔵文化財センター 松元一浩）

②埋蔵文化財関係の届出・通知について（長崎県埋蔵文化財センター 宮武直人）

③事例報告 I 「長崎県埋蔵文化財センターの取組」（長崎県埋蔵文化財センター 濱村一成）

- ④事例報告Ⅱ「平戸市における埋蔵文化財の保存と活用」(平戸市文化交流課 小松義博)
- ⑤事例報告Ⅲ「史跡出島和蘭商館跡の保存と活用」(長崎市出島復元整備室 山口美由紀)
- ⑥埋蔵文化財保護行政に関する近年の動向について(長崎県埋蔵文化財センター 宮武直人)
- ⑦意見交換会

3. 埋蔵文化財担当者専門技術研修

目的 県内市町の埋蔵文化財専門職員及び埋蔵文化財保護業務を担当する職員等を対象として、埋蔵文化財保護行政を円滑に遂行するために必要な知識の修得を図る。

日時 令和6年1月30日(火)

会場 長崎県埋蔵文化財センター・一支国博物館

参加者 県及び市町文化財担当者18名、民間調査機関社員3名 合計21名

内容

(1) 挨拶

(2) 専門技術研修

①講義「鍛冶関連遺構・遺物について」

(愛媛大学 アジア古代産業考古学研究センター 村上恭通)

②事例報告1「弥生時代の鍛冶関連遺跡-カラカミ遺跡-」

(老岐市教育委員会 松見裕二)

③事例報告2「中近世の鍛冶関連遺跡-十園遺跡ほか-」

(雲仙市教育委員会 辻田直人)

④遺物実見「鍛冶関連遺物について」

(愛媛大学 アジア古代産業考古学研究センター 村上恭通)

⑤実技「鍛冶関連遺物の分析・保存処理について」

(長崎県埋蔵文化財センター 片多雅樹)



講義風景



持ち寄り遺物の検討

Ⅲ. 長崎県埋蔵文化財センターの事業

1. 東アジア考古学研究事業

(1) 発掘調査事業

長崎県埋蔵文化財センターでは、原の辻遺跡調査研究事業として遺跡内の環濠や旧地形等の状況調査を目的に平成14年度から国庫補助を受けながら範囲確認調査を実施している。令和4年度からは、遺跡の北側から南側にかけての遺跡の広がりや遺構の状況を確認するための5年計画を実施中であり、またこの5年計画と並行して、令和4年度から令和6年までの3年間の事業として、「し島の遺跡の魅力」探求事業を行っている。これは「埋蔵文化財を活用した志岐・対馬・五島地域の活性化」と「郷土を愛する人材の育成」を目的とするもので、志岐に加え、対馬地域と五島地域においても発掘調査を実施するものである。

調査の概要については、IV章以下を参照されたいが、各調査は次の場所で行なわれた。

五島地域 場所：相津遺跡（小値賀町前方郷）

期間：5月23日から6月9日にかけて実施

成果：石鎌の可能性のある石器が出土。遠賀川以東系土器の甕棺墓が出土

対馬地域 場所：ヌルヘノクチ遺跡（対馬市峰町字三根）※令和4年度の継続調査

期間：9月25日から10月13日にかけて実施

成果：古墳時代前期の土器、および前期後半のガラス小玉が出土

志岐地域 場所：間繰遺跡（原の辻遺跡）※令和3、4年度の継続調査

期間：11月27日から12月26日にかけて実施

成果：落ち込み状の地形および弥生時代中期後半の土器群の検出

(2) 巡回遺跡展・講演会の開催

東アジア考古学研究室は本県が古代から東アジア交流の要衝として独特の文化を育ててきた歴史的経緯を踏まえ、東アジアの視点に立った考古学研究を推進している。令和4年度から行っている「し島の遺跡の魅力」探求事業では、本県の離島地域における大陸と本土との交流を示す埋蔵文化財を発見・周知することを目的に、志岐・対馬・五島地域を対象に埋蔵文化財の調査研究を行い、その成果の情報発信の場として巡回遺跡展および講演会を開催する。令和5年度は「煌々（きらきら）しき境界の島—外交と交易と祈りの青銅器—」をテーマとして巡回遺跡展・講演会を実施した。

○主催 長崎県埋蔵文化財センター

○共催 対馬市、対馬市教育委員会

○後援 釜山博物館、大村市教育委員会、平戸市、松浦市教育委員会、東彼杵町教育委員会、魏志倭人伝のクニグニネットワーク参加自治体・教育委員会、長崎新聞社、西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、NHK長崎放送局、NBC長崎放送、KTNテレビ長崎、NCC長崎文化放送、N1B長崎国際テレビ、対馬新聞社、株式会社コミュニティメディア（対馬市CATV）



巡回遺跡展・講演会チラシ

<巡回遺跡展>

○期 間 令和6年2月3日(土)～令和6年2月25日(日)

○場 所 対馬博物館 特別展示室

○参加者 670名

<講演会>

○日 時 令和6年2月25日(日) 13:00～16:00

○場 所 対馬市交流センター 大会議室

○参加者 40名

○内 容 講演1 「長崎県と対馬の青銅器」

長崎県埋蔵文化財センター主任文化財保護主事 白石漢牙

講演2 「外交と交易と祈り ―老岐と対馬の青銅器から―」

福岡大学名誉教授 武末純一

研究発表 「『神宿る島』老岐の信仰について～歴史の変遷と特異性～」

「老岐勝本城跡の本丸虎口に関する研究」

老岐高等学校東アジア歴史・中国語コース 歴史学専攻生

ギャラリートーク (対馬博物館)



巡回遺跡展展示風景



講演会



ギャラリートーク

(3) 東アジア諸国の研究機関との連携



一支園博物館特別講座 研究成果発表

長崎県埋蔵文化財センターは、平成27年5月に韓国・釜山博物館と友好交流機関協定を締結して以来、相互に職員を派遣し、発掘調査への参加や共同で資料調査を行うなどの学術交流を実施している。長崎県と釜山市では相互に関連のある考古資料が出土しているが、日韓の研究者双方の目で、同時に検討することで、海を介した交流の実態が明らかになってきた。また、中国東北地方(主に遼寧省・吉林省)を中心とした研究機関とも連携を深めている。

令和5年度には、古墳時代の製法によって日本や釜山で作られた「土師器系土器」をテーマとして共同研究を実施することとし、その成果は、釜山博物館および長崎県埋蔵文化財センターの双方が刊

行する研究紀要に掲載されている。またその研究成果は、令和6年1月21日（日）に一支国博物館の特別講座において公開された。

○合同発掘調査の実施

令和2年度から令和3年度にかけては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、職員の往来を伴う交流は不可能であった。しかしながら令和4年度からは、新型コロナウイルス感染拡大に伴う規制が緩和されたことを受けて、両機関の職員が互いの発掘現場を訪問し、技術交流と意見交換を行う合同発掘調査を実施している。令和5年度は、9月2日から9日にかけて、韓国釜山古村里（こそんり）古墳群の発掘調査に東アジア考古学研究室職員1名が参加した。また釜山博物館からは、12月16日から26日にかけて、老岐市園繰遺跡（原の辻遺跡）の発掘調査に学芸研究士1名が参加した。発掘現場で遺構や遺物に関する検討を行うことができたほか、遺跡において「土を掘る」ため、または安全に配慮した道具選びなどについて両国間の違いについて情報交換することができ、双方にとって大変有益な学びの機会となった。



古村里古墳群における合同発掘調査風景



園繰遺跡（原の辻遺跡）における合同発掘調査風景

（4）長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第14号の刊行

本センターの研究紀要は、開所以来毎年刊行を重ねている。第14号では次の2本の論考を掲載した。
[内容]

宮崎 貴夫「竹松遺跡の片刃石包丁について」

申 東昭・白石 溪河「釜山老圃洞遺跡出土『脚付三連壺』の意義」

2. 保存処理事業

県保有資料の木製品362点、金属製品334点、その他の材質10点の計706点に関して国庫補助事業を活用して保存処理を行った。木製品はPEG含浸処理法及びトレハロース含浸処理法により保存処理を実施した。金属製品は主に鉄製品と銅製品に大別されるが、いずれも透過X線撮影等事前調査を実施したのち、錆取り作業⇒脱塩処理（銅製品はBTA（ベンゾ・トリ・アゾール）処理）⇒アクリル樹脂含浸強化処理⇒接合・修復を実施した。その他、脆弱な土器や動植物遺体は水で希釈できるエマルジョン系アクリル樹脂を含浸し、接合できる状態に強化した。

また県内市町が保有する資料に関しても所定の申請を行えば保存処理施設の利用を許可しており、令和5年度は8機関からの利用があり計172点の保存処理を行った。



保存処理例(左:寺中A遺跡出土「袋状鉄斧」、右:早岐瀬戸遺跡出土「天保通寶」)

令和5年度国庫補助事業による保存処理一覧

◆木製品：362点

遺跡名	所在地	遺跡番号	処理点数	処理方法	備考
早岐瀬戸遺跡	佐世保市	201906	62	PEG含浸処理	令和元年度調査
			1	トレハロース含浸処理	
		202005	278	PEG含浸処理	令和2年度調査
			19	トレハロース含浸処理	
		202102	2	PEG含浸処理	令和3年度調査

◆金属製品：334点

遺跡名	所在地	遺跡番号	処理点数	処理内容	備考
早岐瀬戸遺跡	佐世保市	201906	290	錆取り・クレンジング ↓ 脱塩・BTA処理 ↓ アクリル樹脂 (パラロイドNAD10 又はパラロイドB72) 含浸強化処理	令和元年度調査
		201914	24		令和元年度範囲確認
寺中A遺跡	島原市	202210	5		令和4年度調査
上原遺跡(隣接地)	新上五島町	202219	3		令和5年度調査
相津遺跡	小値賀町	202301	2		
下原第1遺跡	対馬市	202305	4		
下原第2遺跡	対馬市	202306	4		
長崎奉行所跡	長崎市	NK183	2	平成15年度調査(再処理)	

◆土器・骨：10点

遺跡名	所在地	遺跡番号	処理点数	処理方法	備考
石屋洞穴	佐世保市	202112	3	アクリル樹脂 (バインダー17) 含浸強化処理	令和3年度調査
関繰遺跡	杵岐市	202216	5		令和4年度調査
上原遺跡(隣接地)	新上五島町	202219	2		令和4年度調査

総計：706点

令和5年度 県内市町保存処理点数一覧

市町名	利用機関	遺跡名	種別	点数
長崎市	長崎市文化財課	魚の町遺跡、出島和蘭館跡	木製品	14
	出島復元整備室			1
佐世保市	佐世保市文化財課	早岐瀬戸遺跡、佐世保要害砲兵連隊跡、竹辺遺跡	金属製品	47
諫早市	諫早市文化振興課	沖城跡	木製品	1
		千々石ミゲル夫妻墓所、愛宕山五重塔	金属製品	13
杵岐市	杵岐市社会教育課	車出遺跡、国柳遺跡、串山ミルメ浦遺跡	金属製品	47
西海市	長崎国際大学	横瀬浦史跡公園	金属製品	6
雲仙市	雲仙市教育委員会	内屋敷遺跡	金属製品	40
小値賀町	小値賀町教育委員会	沖ノ神嶋神社	金属製品	3

総計 172点

出土遺物の保存処理に伴う事前調査機器（精密分析機器）も保有し、金属製品の材質分析や構造調査等もやっている。規定に基づき外部利用も受け入れており、令和5年度は11機関が、蛍光X線分析装置、透過X線撮影装置、実体顕微鏡などを利用した。また、可搬型の蛍光X線分析装置を用いて、センターまで搬入できない資料等についての成分分析も実施し、特にキリシタン関係資料の調査に多く活用された。



携帯型蛍光X線分析装置によるキリシタン資料の調査

令和5年度 精密分析機器外部利用一覧

利用時期	利用者	利用内容	主な使用機器
2023年6月	西海市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2023年7月	長崎純心大学	ガラス製品などの調査	実体顕微鏡・蛍光X線分析装置
2023年7月	西海市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2023年7月	長崎県立上五島高校	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2023年8月	長崎県文化振興・世界遺産課	キリシタン資料の成分分析	携帯型蛍光X線分析装置
2023年8月	長崎純心大学	キリシタン資料の成分分析	携帯型蛍光X線分析装置
2023年9月	鎮西学院大学	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2023年9月	雲山市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2023年10月	長崎大学	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2023年11月	長崎国際大学	金属製品の調査	透過X線撮影装置・蛍光X線分析装置
2023年12月	長崎県文化振興・世界遺産課	キリシタン資料の成分分析	携帯型蛍光X線分析装置
2023年12月	韓国釜山博物館	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2023年12月	雲山市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2024年2月	小値賀町教育委員会	金属製品の成分分析	透過X線撮影装置・走査型電子顕微鏡
2024年2月	佐世保市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2024年3月	長崎大学	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2024年3月	西海市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置

3. 水中文化遺産保存活用推進事業

(1) 県内水中遺跡の分布調査

長崎県埋蔵文化財センターは、県内水中遺跡の所在と内容を把握するための分布調査を行っている。令和5年度は、県北地区の3市（佐世保市・平戸市・松浦市）を対象とした。分布調査は基本的に予備調査、陸上踏査、潜水調査、現地確認の4段階で行ってきたが、令和5年度は予備調査と陸上踏査のみを行い、次年度に周辺海域の潜水調査等を行う予定である。



既存の遺跡地図に予備調査結果を反映したプロット図



平戸瀬戸の沿岸で採集した剥片石器類

発見した考古遺物は、原則写真撮影及び位置情報取得の上採集した。調査の結果、合計45か所（遺物総量コンテナ13箱）の遺物散布地等の水中遺跡を確認した。

(2) 水中文化遺産の担い手育成（体験講座）

水中考古学体験講座は、松浦市鷹島海底遺跡が所在する松浦市との共催事業であり、令和5年度は3か年事業の最終年度となった。令和5年8月23日（水）から8月25日（金）の3日間、「わくわく!! 水中考古学体験講座 in 鷹島」と題し、全国から現地参加20名、オンライン参加15名、合計35名が参加し水中文化遺産の保存活用について講義を聴講すると共に他大学、他分野の参加者と交流を深めた。

内容 [講義]

- ・記念講演「鷹島海底遺跡と元寇（元軍）船」（國學院大学 池田榮史 教授）
- ・講義1「水中遺跡の保存と活用」（文化庁 芝康次郎 調査官）
- ・講義2「水中考古学から探る中近世の土木技術」（佐賀大学 宮武正登 教授）
- ・講義3「肥前陶磁に見る海の交易」（長崎大学 野上建紀 教授）
- ・講義4「水中遺跡および出土遺物の劣化と保存」（奈良文化財研究所 柳田明進 主任研究員）
- ・報告1「恩納村における水中遺跡調査」（恩納村教育委員会 崎原恒寿 学芸員）
- ・報告2「長崎県における水中遺跡分布調査」（長崎県埋蔵文化財センター 宮武直人 係長）

[エクスカージョン等]

- ・ガイダンス施設及び保存処理施設の見学
- ・史跡「鷹島神崎遺跡」の船上見学
- ・グループディスカッション



講座の様子



参加者集合写真

4. 元寇関連保存・活用事業

学芸文化課では、令和6年の元寇750周年と令和7年度の国民文化祭に向けて、元寇関連保存・活用事業を3か年計画で始動させた。事業テーマは、鷹島海底遺跡を擁する長崎県松浦市をはじめ、対馬市・壱岐市・福岡県・佐賀県等の元寇に関わる地域と連携し、関連文化財の理解に繋がる取り組みを行うとともに、観光部局・地域振興部局とも横断して関連コンテンツやストーリーを新たに創出し、観光等の地域活性化に繋げるというものである。

こうしたコンテンツ創出の中で、新たな文化財の発見を目的に対馬市と壱岐市で試掘調査が計画され、埋蔵文化財センターも協力して6～8月の期間で試掘調査を実施した。学芸文化課では、この試掘調査の結果も交え関連コンテンツをまとめたパンフレットを刊行し、10月に壱岐市で、11月には対馬市で、

1月には長崎市でシンポジウムを開催した。また対馬市では、文化庁主催の「発掘された日本列島展」の地域展示に合わせ、令和5年11月11日から翌年1月8日にかけて、パンフレットとリンクした各種の出土遺物やパネルを展示した。

(1) 発掘調査

①文永の役・対馬（佐須浦古戦場跡）

期 間 令和5年6月19日～7月7日

場 所 対馬市鞆原町下原・樫根

担 当 川口洋平（学芸文化課）、松元一浩・今西亮太（長崎県埋蔵文化財センター）

②文永の役・杵岐（樋詰城跡含む新城古戦場跡及び唐人原古戦場跡）

期 間 令和5年7月18日～8月8日

場 所 杵岐市勝本町新城東触

担 当 川口洋平（学芸文化課）、白石溪研・山梨千晶・今西亮太（長崎県埋蔵文化財センター）

(2) シンポジウム

主 催 学芸文化課

共 催 杵岐市教育委員会・対馬市教育委員会・
松浦市教育委員会

①杵岐会場

日 時 令和5年10月28日（土）13:30～15:30

場 所 杵岐市立一支国博物館（多目的ホール）

講 演 「蒙古襲来」と杵岐
佐伯弘次（九州大学名誉教授）
「杵岐島の碇石について」
立石徹（杵岐市教育委員会）

参加者 40名

②対馬会場

日 時 令和5年11月19日（日）9:30～11:30

場 所 対馬市交流センター（大会議室）

講 演 「元寇と遺跡」
近江俊秀（文化庁主任調査官）
「蒙古襲来」と対馬
佐伯弘次（九州大学名誉教授）
「蒙古襲来と杵岐対馬の古仏」
井形進（九州歴史資料館）

参加者 41名

③長崎会場

日 時 令和6年1月27日（土）13:30～15:30

場 所 長崎歴史文化博物館（ホール）



シンポジウム（長崎会場）



展示室の一角（対馬会場）



パンフレット

講演 「蒙古襲来」と鷹島 佐伯弘次（九州大学名誉教授）
 「海底から蘇る「蒙古襲来」-鷹島海底遺跡発掘調査の成果報告-」 内野義（松浦市教育委員会）
 「蒙古襲来と老岐対馬の古仏」 井形進（九州歴史資料館）

参加者 60名

5. 教育普及事業

(1) オープン収蔵展示

調査研究の成果を紹介するため、併設する老岐市立一支国博物館のオープン収蔵庫（高さ5mのガラス張りで、キッズこがく研究所および博物館2階より内部を見ることができる収蔵庫）を活用して、遺物の展示を行っている。令和5年度は以下の3つのテーマで遺物展示を行った。

第1回目『ほねほね!?MAIBUN 動物らんど -遺跡のなかのさまざまな動物たち-』では、県内の遺跡から出土した「動物の骨」や、描かれたり形作られたりして表現された動物たちの出土品を通して人と動物たちの歴史を紹介した。

第2回目『THE 洞窟展 -長崎県の洞窟遺跡-』では、当センターが令和3・4年度に行った発掘調査で新規発見となった洞窟遺跡の出土品を中心に、県内の代表的な洞窟遺跡などを紹介した。また、佐世保市教育委員会・東南アジア考古学会主催のパネル展『東南アジアの洞窟遺跡』も同時開催した。

第3回目『わからないもの展 -遺跡からみつける「なんだこれ」-』では、遺跡から見つかる用途不明品や、保存処理などを経て正体がわかったもの、これからの研究が期待されるものなどを、最新の発掘調査成果を含めて展示・紹介した。答えのていがない、または用途について諸説ある展示品については、来場者の感想・意見などを付箋紙に書いて貼ることができるコーナーを期間限定で設けた。設けたスペースが埋まるほどの付箋紙が貼られ、来場者から一定の反応を得ることができた。



ほねほね!?MAIBUN 動物らんど



わからないもの展

令和5年度 オープン収蔵展示

テーマ	主な展示品	期間
ほねほね!?MAIBUN動物らんど -遺跡のなかのさまざまな動物たち-	ナウマンゾウ・ヤベオオツノジカの化石/原の辻遺跡、ウシの骨/大浜遺跡、シカの骨/堂崎遺跡、土人形/岩原目付屋敷跡、三彩鳥型水漏/桜町遺跡 ほか	令和5年6月30日(金) ~ 令和5年10月27日(日)
THE 洞窟展 -長崎県の洞窟遺跡-	石器(石鏃・石匙未製品・スクレイパー、台石、磨石)、縄文土器(前期)/石屋洞穴、縄文土器(レプリカ)/門前遺跡 ほか	令和5年10月27日(金) ~ 令和6年2月25日(日)
わからないもの展 -遺跡からみつける「なんだこれ」-	人面石(レプリカ)/原の辻遺跡、鉄入りのハソウ/中島遺跡、蛇紋岩製異形石器/北/園遺跡、アイロン状木製品/早岐瀬戸遺跡、十字架文軒平瓦/西役所跡、トロコ石器/茶園遺跡 ほか	令和6年3月1日(金) ~ 令和6年6月23日(日)

(2) 情報誌

一般向けPDF情報誌として『南北市縦』第18号をHPで配信した。この情報誌では、前年度(令和4年度)のセンター情報をわかりやすくまとめた記事を掲載している。

(3) ホームページおよびFacebookの公開更新

ホームページ (<http://www.nagasaki-msibun.jp/>) には『施設案内』、収蔵する出土品や精密分析機器の『施設利用』に関する申請書を掲載しているほか、近年の発掘調査状況を掲載している『センター発掘情報』、オープン収蔵展示や教育支援事業などを紹介する『インフォメーション』、刊行物を紹介する『出版物情報』、バックヤードツアーなどイベントを紹介する『イベント情報』などを掲載している。また、平成26年から開設しているFacebookページ (<http://fb.com/1461241530809034>) で多くの写真を用いて親しみやすい情報の発信に取り組んでいる。

(4) 体験学習

令和5年度より『まいぶん子ども教室』と題し、主に小学生を対象とした体験学習を夏休み期間中に開催した。焼成粘土を使つての縄文アクセサリや土笛の製作、精密分析機器を使った体験など、子どもたちに分かりやすく興味を示すようなアイデアを盛り込んだ。また、普段から職員が作業している出土品整理作業室で体験することにより、センターの仕事内容や成果をより身近に感じてもらえるようにした。令和5年度は5回の開催で計53名の参加があった。



(5) バックヤードツアー

埋蔵文化財センターに併設されている一支国博物館のイベントとして、毎月第3土曜日にバックヤードツアーを実施している。普段立ち入ることができないセンターの保存処理施設や出土品収蔵庫等を見学するツアーで、主にセンター職員が対応している。令和5年度は12回の開催で、計71名の参加があった。

(6) 資料貸出・閲覧・掲載許可

収蔵している出土品等の貸出や資料閲覧、写真等掲載に関して、所定の申請を受け、使用目的等適切であれば許可している。令和5年度は出土品の資料貸出3件(九州国立博物館、杉並区立郷土博物館、吉野ヶ里公園管理センター)、資料閲覧6件、写真掲載許可申請10件に関して対応した。



出土品収蔵庫を案内

(7) 長崎県立杵岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース」支援

本センターでは、高校生の離島留学制度で設定された長崎県立杵岐高等学校東アジア歴史・中国語コースの授業支援を行っている。支援は1年生のコース生全員と、2年生の歴史学専攻生の授業の一部を担当しており、埋蔵文化財の公的な専門機関が年間を通して高校の授業を担当する例は全国でも稀である。

1 学校設定科目の授業に関すること

月	日	曜	1年生			2年生			3年生		
			授業名	担当者	実施場所	授業名	担当者	実施場所	授業名	担当者	実施場所
4	12	水				考古学研究1	白石 山梨	センター			
4	19	水	博物館・センター見学	センター職員	センター						
4	26	水				考古学研究2	白石 山梨	センター			
5	17	水				考古学研究3	白石 山梨	センター			
5	24	水				考古学研究4	齊長 山梨	センター			
6	14	水	香焼の史跡(記録)①	白石・山梨	島内	香焼の史跡(記録)①	白石 山梨	島内			
6	21	水	香焼の史跡(記録)②	白石・山梨	島内	香焼の史跡(記録)②	白石 山梨	島内			
7	5	水	事前指導	白石・山梨	香焼 莩	事前指導	白石 山梨	香焼 莩			
7	12	水				考古学研究5	白石 山梨	センター			
7	19	水				考古学研究6	白石 山梨	センター			
8	23	水				考古学研究7	白石 山梨	センター			
8	29	火				論文作成指導	山梨	香焼 莩			
8	30	水				論文作成指導	山梨	香焼 莩			
9	1	金				論文作成指導	山梨	センター			
9	4	月				論文作成指導	山梨	香焼 莩			
9	5	火				論文作成指導	山梨	香焼 莩			
9	6	水				論文作成指導	山梨	センター			
9	20	水	歴史学入門(考古学研究1)	白石・山梨							
11	8	水				ポスター作成指導	白石 山梨	センター			
11	15	水									
11	22	水									
11	29	水									
12	6	水	原の辻遺跡発掘体験	白石・山梨	原の辻	原の辻遺跡発掘体験	白石 山梨	原の辻			
1	10	水	歴史学入門(数理解作兼1)	白石・山梨	センター						
2	14	水	歴史学入門	齊長・白石 山梨	センター						

2 体験入学・春遊訪問

月	日	行事名	担当者	実施場所	
8	19	土	第1回コース体験入学	コース担当者	博物館・センター
11	3	金	第2回コース体験入学	※埋蔵文化センターでの行事はなし	博物館・センター
2	22	水	コース3年生春遊訪問	コース担当者	博物館・センター

令和5年度は、1年生の「歴史学入門」を8回、2年生の「考古学研究」を18回実施し、特に2年生に対しては奈良大学と奈良県が主催している「歴史フォーラム」に研究論文を応募するための研究支援を中心に行った。研究支援は、1年次に論文のテーマ検討を先行して行い、2年次の9月まで通常の授業時間および放課後の時間帯に論文作成のための指導を行った。その結果、「香焼勝本城跡の本丸虎口に関する研究」を研究論文として提出し、上位10編の「佳作」に選出された。



杵岐高校（島内巡検）



杵岐高校（論文作成指導）

(8) 長崎県内の離島地域における高校生を中心とした授業支援

本センターでは、令和4年度より「しまの遺跡の魅力」探求事業を立ち上げ、埋蔵文化財を活用した杓岐・対馬・五島地域の活性化および郷土を愛する人材の育成を目的に活動を行っている。その一環として、これまで継続的に行っている長崎県立杓岐高等学校東アジア歴史・中国語コースの授業支援に加えて、対馬・五島地域における高校生への授業支援を行った。

令和5年度は、五島南高等学校1回、宇久高等学校1回で計2回の出前授業を実施した。また、上五島高校が本センター所有精密分析機器を用いた黒曜石産地分析を行っている。



宇久高等学校

No.	日付	高校名	対象	人数	形式	内容
1	12月8日(金)	五島南高等学校	3年生	27名	対面	埋蔵文化財について、五島市の遺跡
2	2月8日(木)	宇久高等学校	1年生	1名	対面	埋蔵文化財について

(9) 学校教育支援「埋文MAIBUN学びのサポート」

本センターは、「埋文MAIBUN学びのサポート」という学校教育支援を行っている。これは、センター職員の高い専門性や、石器・土器など実際の遺物、さまざまな機器を活用したセンターでの学習等を通して、考古学への児童生徒の興味・関心を高めるほか、幅広い知識や技能の習得をサポートすることを目的として実施している。令和5年度は6件で260人の利用があった。



(10) インターンシップ受け入れ

長崎県では、大学等で構成する長崎インターンシップ推進協議会より依頼を受け、大学生等のインターンシップ受け入れを行っている。当センターでは、令和5年8月28日(月)から9月1日(金)までの5日間で2名(奈良大学、南九州大学)を受け入れ、文化財保護行政及び埋蔵文化財センター業務内容の説明、杓岐島内遺跡巡検、出土品の整理作業・保存処理作業・精密分析作業等の業務体験を実施した。



出土銅製品の錆取り作業

(1 1) 現地説明会

①相津遺跡

6月4日(日)に相津遺跡において現地説明会を開催し、近隣住民の方々を中心に18名の参加を得た。弥生時代の甕棺(小児棺)に「遠賀川以東系」と呼ばれる、現在の北九州市辺りで日常的に使用された土器の甕が用いられていることなど、当時の海をまたいだ交流について説明したところ、参加者からは興味深そうな様子が見受けられた。また、この機会を利用して、相津遺跡周辺の遺跡の案内を行い、文化財保護についての理解を深めることができた。



相津遺跡における現地説明会風景

②ヌルヘノクチ遺跡

10月7日(土)にヌルヘノクチ遺跡において現地説明会を開催し12名の参加を得た。遺物包含層が緩やかな斜面に沿って堆積している状況や、この土層から出土した古墳時代前期のガラス小玉が出土した状況について解説を行い、普段は気づかないような場所にも眠っているかもしれない貴重な埋蔵文化財について知ってもらうことができた。



ヌルヘノクチ遺跡における現地説明会風景

③北ノ園遺跡

11月25日(土)の午後に現地説明会を開催した。当日は強めの風が吹いていたものの天候には恵まれ、県内から36名の見学者が訪れた。出土品展示コーナーでは、普段触れる機会の少ない出土品の質感や重さなどを確かめながら興味深そうに眺めたり、職員の解説に耳を傾けたりする様子が見られた。また、当センターの活動を紹介するコーナーでは、県内の遺跡や出土品を紹介した配布物が好評で、職員に詳しく尋ねるなど賑わっていた。担当者による解説は2回行い、石積の水路の調査状況や河川堆積によって縄文土器が埋没している状況などを説明した。



北ノ園遺跡現地説明会

(1 2) 地元説明会

早岐瀬戸遺跡の発掘調査では、現地説明会に加え地元説明会を令和4年度から実施している。早岐茶市や波佐見陶器市等の地元イベントに参加したほか、早岐自治連合会や早岐川建設促進期成会等の会議、早岐川河川改修工事を対象とした長崎県「土木の日」現場見学会において、調査経過や内容を説明し周知を図った。

令和5年5月26日(金)・27日(土)、遺跡内で行われる早岐茶市は参加2年目となり、会場中央の本部テント前を提供いただき説明ブースを設置した。発掘調査の途中成果をまとめたパネルと

出土遺物の一部を展示し、立ち寄る来場者に説明したほか、地元の伝統工芸である「佐世保独楽」作成者との独楽回し体験のコラボレーションも実現できた。これは、発掘調査で複数出土した木製独楽が、形態的類似性等から佐世保独楽との関連性が示唆されたことに端を発するものである。体験では小学生を中心に大人も含め独楽回しを楽しむ姿があった。また、コロナ禍もあって茶市では見られなくなっていた猿回しや大道芸のブースがすぐ隣にあり、中世から続くといわれる市の賑わいを体感できる空間となっていた。



説明ブース（早岐茶市）

27日のみで来場者総数2万2千人を数えたとのことであったが、その一部が発掘調査のブースに目を向け閲覧したとしても、数千人規模の人々に認知され周知できたことは大きな成果であったと言える。特に、パネルの解説に対しては、「読むだけだとフーンで終わるけど、解説してもらおうと遺跡があったことの実感が沸いた。ありがとう」等の感想も幾つかいただき、説明会の意義を感じることができた。



佐世保独楽の体験（早岐茶市）

IV. 令和5年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要

1. 相津遺跡【遺跡調査番号：202301】

所在地 長崎県北松浦郡小値賀町前方郷3876-1

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査原因 しまの遺跡の魅力探求事業

調査面積 29㎡

調査期間 令和5年5月23日～令和5年6月9日

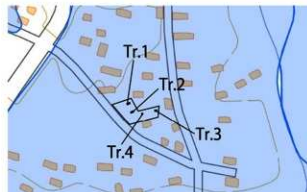
調査区分 範囲確認調査

報告書 令和6年度刊行予定

処置 調査後埋め戻し

立地と環境

相津遺跡は、小値賀島東部の前方湾に面した、舌状台地の先端部に所在する。扇状台地の最先端部が前方湾と接する地点には、地の神島神社が鎮座するが、ここを中心として広範囲に遺物が散布している。遺跡の範囲は、北側が小河川によって形成された谷から、南側が南東方向に向かって延びる湿地帯までである。



調査地位置図 (縮尺任意)

調査

調査地の選定には、昭和52年に実施され甕棺墓6基、石棺墓1基を確認した緊急発掘調査の他、平成9年～平成11年までの3か年にわたり小値賀町教育委員会によって実施された範囲確認調査など、既往の調査履歴を参照しつつ、令和3年10月に実施した踏査を踏まえて調査地を決定した。今回の発掘調査の主な目的は、弥生時代前期後半から弥生時代中期前半にかけて、相津遺跡に墓地を残した集団の、居住空間の発見である。



Tr.3小児棺検出状況 (西から)

このため、舌状台地周辺部にわずかに形成される沖積地を避け、丘陵の尾根部近くを調査の対象として選定した。調査は、L字形に配置される耕作地に対して、2m×4mのトレンチを2か所、2m×3mのトレンチを1か所、2m×2mのトレンチを1か所設定し、調査の目的により適宜拡張した。合計29㎡の掘削および埋め戻しは、全て人力により行った。第1トレンチ(Tr.1)およびTr.2においては、削平により遺物包含層が消滅していることが確認された。Tr.3、Tr.4においては、弥生時代の遺物を多く含む遺物包含層が確認されたが、その中でもTr.3において弥生時代中期後半の甕棺墓(小児棺・単棺)が確認された。遠賀川以东系の甕がこれまで知られる中で最も西から出土した事例として貴重である。またTr.3では遺物包含層から石包丁あるいは石鎌の可能性のある石器が出土した。

まとめ

居住空間の実態を直接知り得る竪穴建物等の遺構は確認できなかったが、今回の調査地の近くに存在するものと思われる。石鎌については、去年の調査で発見された2例の石包丁(1報告済み+1未報告)と合わせて、小値賀島においては、穀物栽培が行われていた可能性が示唆されるため、今後検討が必要である。

【調査担当：白石・今西】(文責：白石)

2. 祝言島遺跡（隣接地）【遺跡調査番号：202302】

所在地 長崎県新上五島町船崎郷地先海面
 調査原因 漁礁設置に伴う事前調査
 調査期間 令和5年6月15日
 報告書 刊行予定なし

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター
 調査面積 1,250㎡
 調査区分 分布調査
 処置 調査後工事

立地と環境

祝言島は新上五島町中通島西部にある青方港の北北西に位置する無人島で、祝言島遺跡は上岳と下岳に挟まれた南岸入り江に沿って所在する弥生時代の遺物包含地である。海岸は砂浜になっており、今回の調査地は海岸から沖合約100mの海底で、水深は約3m、水温22度であった。



調査地位置図

調査

長崎県庁水産部漁港漁場課より、新上五島町祝言島沖にて増殖場（漁礁）設置工事に伴う公共事業の照会があり、工事前の事前調査を6月15日に実施した。25m×25mの漁礁を3か所設置予定であったが、今回の調査は遺跡に隣接する2か所を対象とした。祝言島遺跡の隣接地（沖合）にあたり、対象地の海底面に文化財の散布等の有無を確認するため、シュノーケリング（スキューバダイビング）によって調査した結果、対象海底面はほぼ砂地であり、埋蔵文化財の分布は見られなかった。

まとめ

今回の調査は、令和4年度の水中文化遺産保存活用推進事業にて祝言島沖で発見した碇石の報道等から、情報を得た事業課より漁礁設置工事に伴う文化財の確認依頼があり実施した。水中遺跡の保護に関しては周知を含め今後も進めていかなければならないが、今回の調査のように事前確認調査を実施する機会が増えるよう周知を図っていきたい。



祝言島遺跡遠景



シュノーケリング調査の様子

【調査担当：宮武・片多】（文責：片多）

3. 早岐瀬戸遺跡【遺跡調査番号：202303】

所在地	長崎県佐世保市早岐2丁目730外	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	早岐川河川改修工事	調査面積	1,019㎡
調査期間	令和5年7月10日～令和6年3月22日	調査区分	本調査
報告書	刊行予定（時期未定）	処置	調査後工事（一部調査継続）

立地と環境

佐世保市南部の早岐地区に所在し、早岐瀬戸に面した沖積地に立地する。調査地点は早岐瀬戸が最も幅を狭める付近に位置し、周辺は宅地となっている。遺跡周辺は17世紀中頃に平戸藩による早岐瀬戸の埋め立てによって新しく造成された土地で、遺跡の中には平戸往還が通り港町・宿場町として栄えた。



調査地位置図

調査

江戸時代の町屋に伴うピット、土坑、カマド跡、溝、埋壺、埋桶、護岸などを確認した。また、今年度は平戸往還の一部と思われる道路遺構も確認できた。検出した道路遺構は東西方向に延伸し、幅3.6mを数える。町屋の区割にほぼ則って築造されており、令和4年度に検出された大念寺正面から南北方向に延びる道路遺構とも直交する。玉砂利敷きの路面は4面確認できており、最初期の構築段階（17世紀半ば頃）から補修を繰返して使用されている。整地層の下からは、人骨を含む墓と思われる土坑が複数検出されている。なかには埋桶に納められた状態の人骨も見られ、早岐の町屋が形成される以前の土地利用を示唆する。埋立地業層の下からは、多数のピット群が検出されており、縄文・弥生時代の遺物を伴う。

江戸時代の整地層からは碗・皿を中心に陶磁器類が多く出土した。出土した陶磁器はこれまでと同様に三川内、波佐見、有田、平戸等周辺の生産地から失敗品を含む製品が大量に搬入される。平戸往還沿いの建物跡からは、17世紀末頃の唐津系碗皿に伴い、金箔を貼り付けた土師皿も出土している。その他、湧水が見られた整地層の下位からは桶や櫛・下駄・椀などの木製品も豊富にみられた。

埋立地業層の下からは、縄文・弥生時代の遺物が出土している。特に上流側の調査区では、板付式の壺や山ノ寺式段階の壺、太型蛤刃石斧、サヌカイト製の石包丁状石器等、突帯文土器段階に特徴的な遺物がまとまって認められ、大念寺周辺を中心とした弥生集落の存在をうかがわせる。

まとめ

今年度行った平戸往還の調査は、近世の道路遺構の調査事例として貴重である。また、早岐湊は1653年の平戸藩の埋立地業により設けられた港町とされてきたが、これに先行する陶磁器類の出土は、湊が形成される以前の早岐の性格や周辺地域との関係を考える上でも重要な発見である。

【調査担当：宮武】（文責：宮武）

4. 北ノ園遺跡【遺跡調査番号：202304】

所在地	長崎県雲仙市吾妻町木場名 739-2 の一部外	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	一般国道 251 号改良工事（瑞穂吾妻バイパス）	調査面積	1,450 m ²
調査期間	令和5年7月31日～令和6年2月29日	調査区分	本調査
報告書	令和6年度刊行予定	処置	調査後工事

立地と環境

北ノ園遺跡は吾妻町の東端、有明海に注ぐ田内川の河口から約1,300m上流の標高24mほどの扇状地に位置する。遺跡の北西方向には4世紀前半の築造と推定される守山大塚古墳や守山条里跡、北方向の丘陵には坊屋敷石棺が存在する。



調査位置図

調査

調査は、場所によっては地表下150cm前後で湧水し始めたため、排水しながら作業を行った。土層は、試掘調査結果を参考に1～12層に分層し、1層粘質土（試掘調査1～2層相当／現代耕作土及び造成土）、3層粘質土（近世）、4～7層粘質土（古代～中世）、8層粘質土（河川堆積層）、9～10層礫質砂（縄文時代か）、11～12層砂質礫（地山）となる。



調査区1 完掘状況（北方より）

遺構は、調査区の中央で石積の流路を検出した。

裏込及び根石下から石鍋や貿易陶磁器が出土したことから構築年代は中世頃まで遡ると考えられる。4層では畝状遺構を検出した。調査手法の問題で平面と土層断面との整合性は確認できなかったものの土の観察結果から僅かに農耕の痕跡が残っていたと思われる。9層では調査区東側の微高地で大小の土坑を確認した。そのうち4基で堅果類を検出したことからドングリピットと判断したが、土器等が出土しなかったため時代は不明である。

まとめ

1層（現代耕作土及び造成土）に縄文時代から近世の遺物が含まれていたが、特に貿易陶磁器の量が多く、造成前の遺跡周辺の環境を反映していると思われる。流路の両岸は中世頃から近代まで水田または畑地として連続と利用されてきた様相がうかがえる。9層において調査区東端で大小の土坑を検出していることから、調査地点の北方向及び東方向に遺跡が残存している可能性が高い。

【調査担当：濱村、前田】（文責：前田）

5. 下原第1遺跡(仮)・下原第2遺跡(仮)・樫根第1遺跡(仮)・樫根第2遺跡(仮)

【遺跡調査番号：202305・202306・202307・202308】

所在地 下原第1遺跡(仮)：長崎県対馬市厳原町下原379・下原第2遺跡(仮)：下原401・
樫根第1遺跡(仮)：厳原町樫根407番第1・樫根第2遺跡(仮)：樫根341

調査担当 学芸文化課・長崎県埋蔵文化財センター

調査原因 元寇関連保存・活用事業

調査面積 各8㎡(下原第1遺跡(仮)のみ16㎡)

調査期間 令和5年6月19日～令和5年7月14日

調査区分 試掘調査

報告書 令和7年度刊行予定

処置 調査後処理戻し

立地と環境

調査地は文永の役において「小茂田浜の戦い」があったとされる下対馬西岸の佐須川下流域にあたる。対馬での調査目的を、戦いにより甚大な被害があったと考えられる集落遺跡の探索とし、当時の海岸線に近い平地を2か所選定(下原地区・樫根地区)、各2地点ずつ計4地点を調査対象地とした。

下原第1遺跡(仮)は、小規模な扇状地の扇頂右岸にあたる平場に立地し、現・龍泉寺の麓の休耕地となっている。下原第2遺跡(仮)は、佐須川右岸の小規模な扇状地を挟む山地の麓に立地し、宗助国公の手足塚が祀られる佐須乃若御子神社の境内にあたる。樫根第1・2遺跡(仮)は、佐須川左岸の小規模な扇状地に立地し、宗助国公の塚家が祀られる法清寺の近くとなる。

調査

計4地点でそれぞれ試掘坑を2か所設定し(TP1・2)、耕作土を重機で掘削後に人力による掘削調査を行った。下原第1遺跡(仮)では、古代・中世に造成されたと考えられる遺物包含層を確認した。包含層中には微細な炭化物が検出され、古代・中世(鎌倉期・室町期)の年代測定値を示した。また室町期の焼土分布が検出された。焼土分布は面的には広がらず濃度の濃い2か所が認められた。2か所は2.2mほど離れており、柱穴の可能性を考えたが掘り込みや柱



調査地位置図



調査地区位置図



調査地近景(下原第1遺跡(仮))

痕跡等は認められなかった。焼土分布は、炭化物の年代や出土遺物から14世紀頃の中世室町期のもと考えられる。さらに下層ではビット2基が検出され、炭化物から7世紀末から9世紀代にかけての古代の所産と考えられる。遺物では、弥生土器・須恵器・土師質土器・瓦器・朝鮮産陶磁器（無釉陶器・高麗青磁・粉青沙器）・中国産磁器（青磁・白磁）・石製品（石鍋片・砥石）・箸とみられる青銅製品が出土した。遺物包含層は古代・中世前半・中世後半に分けることができる。

下原第2遺跡（仮）では、大量の瓦を含む砂利質の造成土が1.5mほど堆積しており、その下に旧地面が認められた。神社総代の話によると、昭和年間に社の建て替えが行われたとのこと。砂利層が崩れやすいため掘削を中止した。昭和の地表下は未調査であるが造成土中に遺物は認められなかった。

堰根第1遺跡（仮）では、旧河川の砂礫層を確認した以外、遺構や遺物の出土はなかった。

堰根第2遺跡（仮）では、耕作土の下は風化岩盤であり、遺構や遺物の出土はなかった。

まとめ

調査の結果、元寇の痕跡となるような発見はなかったが、下原第1遺跡（仮）では、元寇の時代を含む遺物や包含層が確認できたことに加え、古代から中世後半期までの遺物や焼土・炭化物が検出され、調査地が複合遺跡であることが明らかとなった。今後は新規発見の遺跡「龍泉寺遺跡」として周知化を図っていく。



焼土分布（下原第1遺跡（仮））



土層断面及びビット（下原第1遺跡（仮））



出土遺物の一部（下原第1遺跡（仮））

【調査担当：川口（学芸文化課）・松元・今西】（文責：松元）

ぶんえい えきしんじょうこせんじょう
6. 文永の役新城古戦場（樋詰城跡）【遺跡調査番号：202309】

所在地	長崎県老岐市勝本町新城東触 441、459	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	元寇関連保存・活用事業	調査面積	56 m ²
調査期間	令和5年7月18日～令和5年8月8日	調査区分	範囲確認調査
報告書	令和7年度刊行予定	処置	調査後埋め戻し

立地と環境

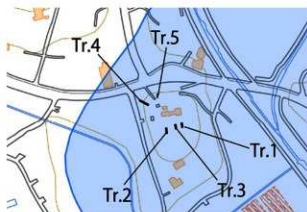
文永の役新城古戦場は、文永の役（1274年）の際元軍の侵攻を迎え撃つ平景隆が合戦したと伝わる場所で、元軍が上陸したと伝わる勝本港から南東に内陸3.6km程度の場所にある。北西から南東に向かって流れる谷江川を中心とし、小高い丘に囲まれた低地と丘陵地が古戦場として周知されている。

調査

調査地である樋詰城跡は、平景隆公自刃の地と伝わるが、城跡の構造等、ほとんど不明である。南北に伸びる丘陵先端の頂部には、明治19年に平景隆公を祭神とする新城神社が建設され、大正5年以降数回の改築が行われている。調査は老岐高校歴史中国語コースの授業支援と合わせて実施し、1年生から3年生までの生徒と多数の教員の参加を得た。掘削と埋め戻しはすべて人力で行った。合計5か所のトレンチを設定し、調査面積は56 m²である。調査地は境内に円形に巡る石垣によって、上段と下段に大別される。上段では、上述の社殿の建設の際に、強く削平を受けたものと判断されたが、時期不明の遺構も確認されている。また中近世の陶磁器や土師器が出土した。下段では、最深部で地表下1.8mまで掘削したところ、空堀の一部が確認された。ただし床面までまだ0.7m程度の深度があるものと思われる。またこの空堀は現在の参拝用の通路（切通部分）の壁面においても観察され、城跡を円形に囲む構造であるとわかる。またこれは、平成19年に作成された概略図の空白部分につながる。

まとめ

近世末期に作成された『老岐名勝図誌』には、樋詰城跡には深さ七尺七寸（約2.3m）の堀が巡ると記され、今回確認された遺構は、こうした堀の一部と判断される。文永の役という歴史的な事件の様子や、当時の社会の様子を解明する直接的な手がかりは得られなかったが、主郭を中心として空堀が円形に巡る構造を持つ城の存在が明らかとなったことは、平景隆公自刃の地という伝承の当否も含めて、今後検討する重要な手がかりになるものと考えられる。



調査地位置図（縮尺任意）



土層観察にて空堀の確認（南から）

【調査担当：白石・山梨】（文責：白石）

7. 上岡遺跡【遺跡調査番号：202310】

所在地	長崎県雲仙市瑞穂町古部甲 2129-1、2130-1	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	鳥原道路（瑞穂吾妻バイパス）建設工事	調査面積	713㎡
調査期間	令和5年8月21日～令和5年10月16日	調査区分	本調査
報告書	令和6年度刊行予定	処置	調査後工事

立地と環境

上岡遺跡は、島原半島北西部の雲仙市瑞穂町に位置する。遺跡は雲仙火山から有明海へと裾野を広げる火山性扇状地の標高約60m地点に立地している。尾根と谷が連続する周辺環境の中で、一つの尾根筋の最も高い場所にある。周辺は宅地や畑として利用され、遺跡に隣接する東側は急峻な崖となる。

周辺遺跡としては、一つ谷を挟んだ尾根上に岡城（夏峰城）跡がある。神代氏配下であった岡氏の居城で、沖田畷の戦い以後廃城となる。



調査地位置図

調査

調査はまず、「西側調査区」「東側調査区」の2つの調査区を設定した。その後、重機による表土掘削、調査グリッドの設定を行い、人力掘削を開始した。遺物包含層は基本的に人力によって掘削し、適宜遺構の検出作業を行った。遺物はグリッド・層位ごとに取上げ、必要に応じて写真・座標観測等の記録作業を行った。土層の堆積状況や地形測量、空中写真撮影、下層確認等の作業を完了したのち、埋戻しを行った。

調査成果として、Ⅲ・Ⅳ層から中世の土師質土器・瓦質土器・貿易陶磁器等を確認し、Ⅴ層からは縄文時代早期の土器と石器が出土した。遺構は確認しなかった。

まとめ

今回の調査では、複数回に渡る土地造成の痕跡が土層の状況から分かった。造成土であるⅢ・Ⅳ層出土遺物の主体は16世紀前半頃であり、土地の改変もその時期以降のものと考えられ、上記した岡氏の断絶に何らかの関係があると想定できる。Ⅴ層出土の縄文時代早期土器は、いずれも摩滅しており、遺跡の山手側から流れてきた可能性が高い。

明瞭な遺構は確認しなかったが、縄文時代から中世期までの土地の成因を考える上で一定の成果が得られた。



上岡遺跡から多良山系を望む（南東から、写真左は岡城跡）

【調査担当：小川】（文責：小川）

ぶんえい えきしんじょうこせんじょう
8. 文永の役新城古戦場【遺跡調査番号：202311】

所在地 長崎県老岐市勝本町新城触 455-1 番地、456-2 番地

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査原因 元寇関連保存・活用事業

調査面積 8 m²

調査期間 令和5年7月20日～令和5年8月10日

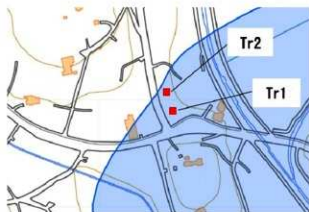
調査区分 範囲確認調査

報告書 令和7年度刊行予定

処置 調査後埋め戻し

立地と環境

調査地は文永の役（1274年）の際元軍の侵攻を迎え撃つ平景隆が合戦したと伝わる場所で、元軍が上陸したと伝わる勝本港から南東に内陸3.6km程度の場所にある。北西から南東に向けて流れる谷江川を中心とし、小高い丘に囲まれた低地と丘陵地が古戦場跡として周知されている。古戦場跡西側には平景隆が自刃したと伝わる桶詰城跡（現新城神社）が、東側の平野部には千人塚が立地する。



調査地位置図

調査

調査区は、丘陵部の旧地形が残ると思われる畑地（休耕地）に対して、2m×2mのトレンチを2か所（各調査坑をTr1、Tr2とした）設定し、合計8m²を調査した。調査は表土掘削と埋め戻しは重機で行い、表土より下層の掘削は人力で行った。また各調査坑で写真、図面による記録を行った。

Tr1において表土（耕作土）の下は暗褐色の旧耕作土が堆積し、その下層の黒褐色土から弥生時代の土器片と石器が出土した。黒褐色土より下層は基盤層と思われるにぶい黄褐色粘質土が堆積する。Tr2は畑の造成時に黒褐色土が削平されたようで、旧耕作土より下層は基盤層が堆積する。



Tr1 掘削状況 南東方向から

まとめ

今回調査した畑地は部分的に弥生時代の遺物包含層が堆積するが、畑地造成時に元寇時（13世紀頃）の土層は削平を受けていると思われる。

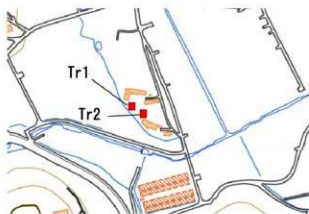
【調査担当：今西】（文責：今西）

9. 文永の役 人原古戦場（仮）【遺跡調査番号：202312】

所在地	長崎県壱岐市勝本町新城触 1322-2 番地	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	元寇関連保存・活用事業	調査面積	12 m ²
調査期間	令和5年7月20日～令和5年8月10日	調査区分	試掘調査
報告書	令和7年度刊行予定	処置	調査後埋め戻し

立地と環境

調査地は文永の役（1274年）の際元軍の侵攻を迎え撃つ平景隆が合戦したと伝わる場所で、元軍が上陸したと伝わる勝本港から南東に内陸2.6km程度の場所に位置する。小高い丘に囲まれた低地と丘陵地が古戦場になったと伝えられ、北西側には文永の役高麗橋古戦場跡が立地し、東側には文永の役新城古戦場が立地する。



調査地位置図

調査

調査区は、丘陵部の旧地形が残ると思われる畑地（休耕地）に対して、2m×3mのトレンチを2か所（各調査坑をTr1、Tr2とした）を設定し、合計12m²を調査した。調査は表土掘削と埋め戻しは重機で行い、表土より下層の掘削は人力で行った。また各調査坑で写真、図面による記録を行った。

Tr1において表土（耕作土）の下は暗褐色の旧耕作土が堆積し、その下層は灰黄褐色粘質土が堆積し、さらに下層は基盤層と思われる黄褐色粘質土が堆積する。Tr1、Tr2ともに旧耕作土より下層では遺物、遺構共に確認できなかった。



Tr1 完掘状況 南西方向から

まとめ

今回調査した調査区では遺物、遺構は確認できず、遺物包含層の堆積も確認できなかったことから、畑地造成時に削平を受けている可能性が考えられる。

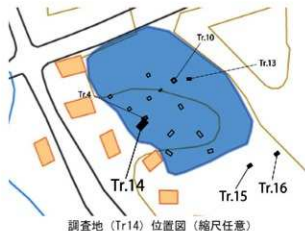
【調査担当：今西】（文責：今西）

10. ヌルヘノクチ遺跡【遺跡調査番号：202314】

所在地	長崎県対馬市峰町三根ヌルヘノ	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	しまの遺跡の魅力探求事業	調査面積	40 m ²
調査期間	令和5年9月25日～令和5年10月13日	調査区分	試掘・範囲確認調査
報告書	令和6年度刊行予定	処置	調査後埋め戻し

立地と環境

ヌルヘノクチ遺跡は、三根湾に注ぐ三根川の左岸にある。河口から直線距離で約2km上流に位置し、佐賀内川との合流地点からほど近い緩やかな台地上に所在する。標高は20m前後である。今回の試掘調査は「しまの遺跡の魅力探求事業」の一部として、三根川流域の弥生時代集落の発見を目的とした。



調査

今回は令和4年度に引き続き、三根川流域の集落の発見を目的として、昨年度遺物包含層の広がりが確認された場所 (Tr. 4、Tr. 10、Tr. 13)のうち最も安定した堆積が見られた Tr. 4) に4m×7mのトレンチ (Tr. 14)、昨年度実施できなかった地点に2m×3mのトレンチ2か所 (Tr. 15、16)を設定した。調査は掘削から埋め戻しまで、すべて人力で行った。



Tr. 14では、3つの遺物包含層が緩やかな斜面に沿って堆積している状況が確認された。ピットのほかには、堅穴建物などの大型の遺構は確認されなかったが、古墳時代前期の甕やガラス小玉1点が見つかった。また、試掘調査を行った Tr.15、16においては、削削が進み、遺跡は消失していた。

まとめ

今回の調査では、集落があったことの直接の証拠となる堅穴建物は確認されなかったものの、遺物の出土状況から、集落は今回の調査区に極めて近い場所に存在した可能性が指摘される。ただし調査区の上方はすでに削削されており、残存するかは不明である。また三韓系土器 (あるいは楽浪系土器) が出土したことも注目される。

【調査担当：白石・山梨】(文責：白石)

ひえだぼる 1.1. 稗田原遺跡【遺跡調査番号：202315】

所在地	長崎県島原市稗田原町甲203-1他	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	一般県道礫石原松尾町停車場線道路改良工事	調査面積	16㎡
調査期間	令和5年10月3日～令和5年10月17日	調査区分	範囲確認調査
報告書	刊行予定なし	処置	要協議

立地と環境

稗田原遺跡は島原市の北東部に位置し、標高約23m～43mの丘陵上に立地する遺跡である。遺跡の範囲は東西約700m、南北約450mで、総面積は315,000㎡と広範囲に及ぶ。

調査

調査は耕作地に対して、2m×2mのトレンチを4か所（各調査坑をTP1、TP2、TP3、TP4とした）を設定し、合計16㎡を調査した。掘削と埋め戻しは全て人力で行った。

層序は、I層（耕作土）、II層（旧耕作土）、III層（にぶい黄褐色土）、IV層（褐色粘質土・遺物包含層）、V層（暗褐色土・遺物包含層）、VI層（黒褐色粘質土）、VII層（灰褐色粘質土）、VIII層（にぶい黄褐色粘質土）、IX層（明黄褐色、灰黄褐色砂礫・基盤層）で、IV層、V層は縄文時代の遺物包含層と思われる。

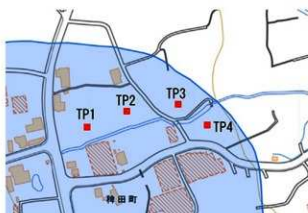
TP1は基盤層まで掘削を行い、他の調査坑は地表から180cm程下で掘削を中断し、各調査坑で写真、図面による記録を行った。

遺物はTP1のIV層で縄文時代後期の土器片が出土し、V層からも縄文時代の土器片が出土した。TP2、TP3は畑造成時に盛土を行ったと思われる層より下層からは遺物が出土しなかった。遺構はどの調査坑からも確認できなかった。

まとめ

今回の調査で遺物包含層からの遺物の出土、遺構が確認できなかったTP2より東方向（海側）に対する本調査は不要であるが、TP1の周辺は本調査が必要である。本調査が必要な範囲については、埋蔵文化財の取り扱いについて協議が必要である。

【調査担当：濱村・小川・今西】（文責：今西）



調査地位置図



TP1土層堆積状況 北方向から

1.2. 間線遺跡(原の辻遺跡)【遺跡調査番号：202318】

所在地	志岐市芦辺町深江鶴亀触 867-1	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	しまの遺跡の魅力探求事業	調査面積	60㎡
調査期間	令和5年11月27日～令和5年12月26日	調査区分	範囲確認調査
報告書	令和6年度刊行予定	処置	調査後埋め戻し

立地と環境

間線遺跡は、原の辻丘陵の北側、安国寺が所在する高台の南側の緩傾斜地に位置する。二つの高台に挟まれた谷頭から南東にやや下った丘陵沿いでは、昭和29年には東亜考古学会、平成7年と平成10年には原の辻遺跡調査事務所により、弥生時代中期を中心とした甕棺墓と石棺墓の列状配置が2地点で確認されている。令和5年度は、令和3、4年度に引き続き、列墓が確認された地点から北に標高差10mほどの傾斜を急激に上がる丘陵部上の緩傾斜地において調査を行った。

調査

本調査地はもともと饅頭畑であったが、1960年代頃(か)に重機による開削が行われ、現状では住宅と上下2段の耕作地となっている。今年度は令和3年度のトレンチ調査により得られた所見をもとに、1区(下の段)に60㎡(6m×10m)の調査区を設定し、重機掘削のち人力掘削による発掘調査を行った。令和3年度以来の調査成果として把握された層序(1層：中世、2層：古墳時代、3層：弥生時代中期後半)は、

今年度の調査においてもおおむね同様に確認された。詳細については今後刊行する発掘調査報告書にて詳述したい。調査では、①落ち込みなど地形の把握、②昨年までの調査で想定された平場での、遺構の有無の確認を目的とした。その結果、①自然地形の落ち込みが確認され、濃淡がありながらも弥生時代中期後半の遺物の集中が見られた。②落ち込みの南東側には狭い平場状の地形が見られたが、遺構は西北隅において、ピットがわずかに確認されるのみであった。

まとめ

令和4年度実施の2区の調査により、1995年調査の間線列墓よりやや遅い時期に丘陵上の土地利用が始まり、列墓と同じく後期初頭に終わることが判明している。3次の調査を通して、1、2区ともに堅穴建物跡は検出されなかったが、遺物の残存状況等から居住空間は2区の近くに存在した可能性が高いものと判断される。



調査位置図 (縮尺任意)



袋状口縁査出土状況 (南から)

【調査担当：白石・山梨】(文責：白石)

13. かみくまき上熊崎遺跡【遺跡調査番号：202319】

所在地	長崎県雲仙市吾妻町田之平名320外	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	一般国道251号改良工事（瑞穂吾妻バイパス）	調査面積	480㎡
調査期間	令和5年12月15日～令和6年3月29日	調査区分	本調査
報告書	令和6年度刊行予定	処置	調査後工事

立地と環境

上熊崎遺跡は吾妻町にあり、有明海に注ぐ大木場川左岸の標高17mほどの扇状地に位置する。遺跡の北側の丘陵には守山城跡やガラングチ廃寺跡、北西方向の扇状地には山田糸里跡、南側の丘陵には横田墓地石棺遺跡や倉子遺跡、大木場川の上流には熊ノ原遺跡などの遺跡が点在する。平成31年に雲仙市教育委員会により横田地区の圃場整備に伴う試掘調査が行われ、その結果により遺跡として登録された。

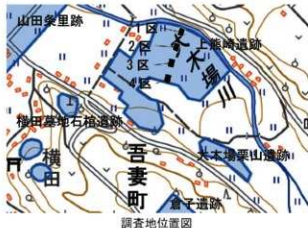
調査

調査は橋脚の基礎にあたる部分を1～4区に分けて行った。土層は各調査区で様相が大きく異なる。また、全ての調査区で地表下約100cmのところから湧水した。1区は、地表下約50～70cmで旧河川と思われる礫層を検出し、100cm近い巨礫が多くみられることから旧河川のなかでも特に流れが急な場所であったと思われる。2区は、表土下の褐色粘質土から龍泉窯青磁碗や景德鎮窯青花碗が出土し、最下層の河川堆積層では安山岩の剥片が1点出土した。3区は、表土下の粘質土で縄文時代から中世頃までの遺物を含んでいた。4区の堆積は3区の堆積と似ており、弥生時代末から古墳時代にかけての高坏の脚部の破片が多く見つっている。最下層の河川堆積で黒曜石剥片と縄文土器片が1点ずつ出土した。遺構は確認されなかった。

まとめ

縄文時代早期及び後晩期の遺物が出土していることから周辺に縄文時代の遺跡が存在している可能性が高い。各調査区の土層堆積状況から、遺跡周辺が河川堆積により徐々に陸地化し、その都度人々に利用されてきた様相がうかがえる。

【調査担当：前田】（文責：前田）



調査地位図



調査区1 発掘状況（北方より）

1 4. 水中遺跡分布調査【遺跡調査番号：202323】

所在地	長崎県佐世保市外2市	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	県内水中遺跡分布調査	調査面積	-
調査期間	令和5年度(通年)	調査区分	分布調査
報告書	令和7年度刊行予定	処置	現状保存

概要

長崎県埋蔵文化財センターは、令和3年度から県内水中遺跡の所在と内容を把握するための分布調査を行っている。令和5年度は、県北地区の3市(佐世保市・平戸市・松浦市)を対象とした。分布調査は基本的に予備調査、陸上踏査、潜水調査、現地確認の4段階で行ってきたが、令和5年度は予備調査と陸上踏査のみを行い、次年度に周辺海域の潜水調査等を行う予定である。

発見した遺物は、原則写真撮影及び位置情報取得の上採集した。調査の結果、合計45か所(遺物総量コンテナ13箱)の遺物散布地等の水中遺跡を確認した。

陸上踏査

沿岸部の踏査の結果、旧石器時代から近世に至る幅広い時期の遺物が採集できた。採集遺物の多くは、縄文・弥生時代の所産と考えられる剥片石器が多くを占める。これに共伴する土器類はごく僅かで摩耗が著しく、時期比定が難しい場合が多い。平戸瀬戸に面した平戸島東岸は、海に突出した海岸段丘の裾にわずかに開けた入江や砂浜が点在するリアス式海岸で、対岸の田平町側の沿岸部も含めて、縄文弥生の散布地が特に広範に存在することが確認できた。

平戸島南部にある志々伎湾沿岸では、中世貿易陶磁器が複数個所で分布することが判明した。現状、志々伎半島の西端外海に面する宮ノ浦では昭和30年代に一石型の礎石が引き揚げられているが、志々伎半島の中世遺跡は志々伎神社が周知されているに過ぎない。今回の踏査によって、志々伎湾の沿岸や海域に中世遺跡が存在する可能性があることから、次年度に継続調査を行い、その実態を明らかにしたい。

また、中世貿易陶磁器は、佐世保市俵ヶ浦半島や針尾半島でも採集されている。俵ヶ浦半島は佐世保湾の北側に位置し、俵ヶ浦城跡、上本船屋敷城跡、鎌屋敷城跡、城の谷城跡、石原山城跡、特甲山城跡等の中世城館が所在する。針尾小鯛浦は浦を見下ろす丘陵に針尾氏の居館跡があって、平成16年に行われた主郭部の調査では15～16世紀代の舶載陶磁器類が多く出土している。いずれも海上交通が未発達な半島部にあって、周辺の入江が城館に至る玄関口として機能していたことが想定され、今後の調査で関連する遺構等の発見も期待される。

調査結果

陸上踏査で把握された水中遺跡については、次年度踏査範囲の拡大や周辺海域の潜水調査を行い、さらに正確な遺跡範囲の把握に努める。調査結果の取扱いについては市町教育委員会と協議の上、周知の埋蔵文化財包蔵地として決定の上、遺跡地図に登載する予定である。

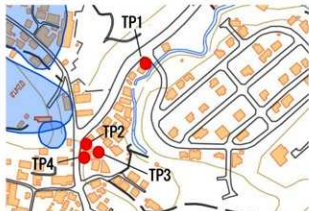
【調査担当：宮武・片多】(文責：宮武)

15. ^{うえはら}上原遺跡（隣接地）【遺跡調査番号：202324】

所在地	長崎県南松浦郡新上五島町有川郷149番地1号地	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	主要地方道上五島空港線交通安全施設等整備工事	調査面積	25㎡
調査期間	令和6年2月26日～令和6年3月7日	調査区分	試掘調査
報告書	刊行予定なし	処置	調査後工事

立地と環境

調査地は中通島中央東部に位置する有川郷の郊外に位置する。有川郷は南東側を山に囲まれた2つの河川が合流する平坦部に形成された市街地で、調査地周辺は、浜海岸から南に向けて平坦地形が広がり、南東は緩やかに立ち上がる丘陵微高地となっている。調査地の東側の台地には縄文・弥生時代の上原遺跡、その裾にあたる旧海岸線付近には弥生時代前期・中期の墓域とされる浜郷遺跡がある。



調査地位図

調査

調査区は、拡幅工事が予定されている道路部の線形に沿って4か所設定した。TP1は海岸線から延びる平坦地形に3m×3m、TP2は丘陵上の宅地跡に設定した4m×3m、TP3、TP4はTP2周辺に設定した1m×2mの大きさである。調査は、重機によって表土掘削を行った後に、人力によって掘り下げを行った。記録作業は写真撮影・図面作成を行った。



TP2完掘状況 東方方向から

TP1について、耕作土直下は明黄褐色の造成土によるかく乱を受けており、その下は無遺物のにぶい黄橙色細砂が堆積している。地山相当の自然堆積層と判断する。TP2は、宅地造成、又は道路付近盛土工事の際に大きくかく乱されており、近現代の陶磁器、ガラス、ビニール片が多く出土するが、これをさかのぼる時期の遺構遺物は認められなかった。かく乱を受けた層の下層には灰黄褐色粘質土が堆積する。ガタ土で壁面、底面から湧水し、地表から1.8m程下げたところで調査を中断した。地元の方の話によると調査区周辺は昔沼地であり、旧地形の可能性が考えられる。確認のためTP2周辺に設定したTP3、TP4は表土より下層のかく乱を受けた層から湧水したため、調査を中断した。

まとめ

今回の調査で遺物包含層や遺構等は確認できなかったため、慎重に工事を進める対応となった。

【調査担当：宮武・今西】（文責：今西）

16. 島原道路関係試掘・範囲確認調査

所在地	長崎県島原市及び雲仙市	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	島原道路（出平有明バイパス、有明瑞穂バイパス、瑞穂吾妻バイパス）建設工事		
調査区分	試掘・範囲確認調査	報告書	刊行予定なし
処置	一部本調査（②樋ノ迫遺跡、⑥倉子遺跡、⑦乙宮遺跡（隣接地））		

立地と環境

調査地は、諫早市と南島原市を結ぶ高規格道路通称「島原道路」の中の出平有明バイパス、有明瑞穂バイパス、瑞穂吾妻バイパス建設予定地にあたり、島原半島東部から北西部、雲仙火山から伸びる緩やかに傾斜する火山麓扇状地に位置する。標高は30m～100m程度で、現状は畑地や田が多く、一部は宅地である。

調査

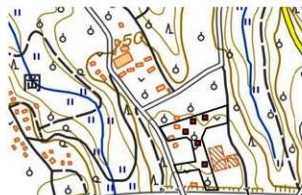
対象地内に長さ2m×6m×幅1.5m～4mの規模の試掘坑を適宜設定し調査を行った。

①平野高野遺跡（仮）【202313】

所在地：雲仙市瑞穂町古部甲849 他

調査面積：24㎡ 調査期間：令和5年9月11日～令和5年10月16日

平野高野遺跡（仮）では、6か所の試掘坑で調査を行った。対象地は大きく削平を受けており、基本層序は1層（耕作土）、2層（明赤褐色土）、3層（灰褐色土）、4層（にぶい橙色土）と整理できる。遺物は試掘坑2の表土から黒曜石製の石鏃が出土したのみで遺構は確認できなかった。



平野高野遺跡（仮）調査地位置図



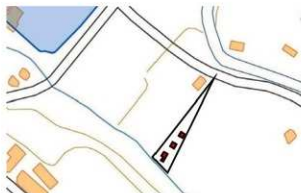
平野高野遺跡（仮）調査風景（北から）

②樋ノ迫遺跡【202316】

所在地：雲仙市吾妻町古城名字樋ノ迫952-1

調査面積：19㎡ 調査期間：令和5年11月1日～令和5年11月17日

樋ノ迫遺跡では、3か所の試掘坑で調査を行った。調査の結果、試掘坑3で石列を検出した。また、石列の下に堆積している層から古代のものと思われる須恵器甕片や土師器甕片が出土し、試掘坑3周辺で遺跡の残存を確認した。



樋ノ迫遺跡調査地位置図



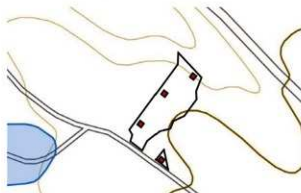
樋ノ迫遺跡試掘坑3石垣と石列(北から)

③迫遺跡(仮)【202317】

所在地：雲仙市吾妻町古城名 810-2、814-1

調査面積：15㎡ 調査期間：令和5年11月20日～令和5年12月19日

迫遺跡(仮)では、3か所の試掘坑で調査を行った。基本層序は試掘坑によって多少異なるが、1層(耕作土)、2層(旧耕作土)、3層(赤褐色粘質土)、4層(黒褐色粘質土)、5層(黄褐色粘質土)、6層(橙褐色粘質土)と整理できる。出土遺物は1層と2層でプラスチック片に混じて黒曜石剥片、安山岩剥片、土師器片、須恵器片、白磁片、青磁片、近世陶磁器片、瓦片が出土した。遺構は確認できなかった。



迫遺跡(仮)調査地位置図



迫遺跡(仮)試掘坑1作業状況(南から)

④弥左エ門高野遺跡(仮)【202320】

所在地：島原市有明町湯江乙 1203-1 他

調査面積：18㎡ 調査期間：令和6年1月24日～令和6年2月1日

弥左エ門高野遺跡(仮)では、4か所の試掘坑で調査を行った。調査の結果、表土から土器、石器、陶磁器、金属製品、鉄滓が出土した。遺構は試掘坑2で幅1m、深さ0.3mの南北方向に走る溝と幅0.9m、深さ0.3mの落ち込みを確認したが遺構内覆土から遺物の出土はなかった。

⑤長尾佐遺跡(仮)【202321】

所在地：雲仙市吾妻町馬場名字長尾佐 438-1

調査面積：9㎡ 調査期間：令和6年2月9日～令和6年2月26日

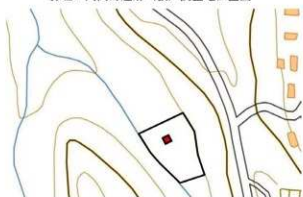
長尾佐遺跡(仮)では、1か所の試掘坑で調査を行った。基本層序は1層(表土)、2層(造成土)、3a層(黄褐色土)、3b層(暗褐色土)、4層(暗褐色土。層上面は湧水点)と整理できる。遺物の出土はなく、遺構は確認できなかった。



弥左エ門高野遺跡 (仮) 調査地位位置図



弥左エ門高野遺跡 (仮) 試掘坑2 状況 (北から)



長尾佐遺跡 (仮) 調査地位位置図



長尾佐遺跡 (仮) 遠景 (北から)

⑥倉子遺跡【202322】

所在地：雲仙市吾妻町大木場名字倉子 437 他

調査面積：63 m² 調査期間：令和6年2月9日～令和6年3月14日

倉子遺跡では、7か所の試掘坑で調査を行った。基本層序は、1層（耕作土）、2a層（にぶい褐色土）、2b層（褐色土）、3層（褐色土）、4層（明黄褐色土）、5層（礫層）と整理できる。遺物は、試掘坑1の2a層及び2b層で縄文時代早期土器片が出土し、2a層及び2b層は縄文時代早期の遺物包含層であることを確認した。遺構は試掘坑1の1層直下で焼土坑を確認したが遺構内覆土から遺物の出土はなかった。この結果、試掘坑1周辺で遺跡の残存があることを確認した。



倉子遺跡調査地位位置図



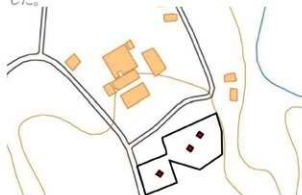
倉子遺跡調査状況 (東から)

⑦乙宮遺跡（隣接地）【202325】

所在地：雲仙市吾妻町布江名 690 他

調査面積：12㎡ 調査期間：令和6年3月1日～令和6年3月27日

乙宮遺跡（隣接地）では、3か所の試掘坑で調査を行った。基本層序は1層（表土）、2層（造成土）、3層（褐色土）、4層（暗褐色土）、5層（灰白色礫層）と整理できる。遺物は、試掘坑1の壁面で確認したピット内で、釘と思われる鉄製品の欠片、試掘坑1及び試掘坑3の周辺で縄文時代早期土器、黒曜石砕片・剥片、土師器、貿易陶磁器が出土した。また試掘坑1の壁面その周辺で掘立柱建物跡と思われるピットの配列や大型の土坑状遺構を確認し、試掘坑1及び試掘坑3の周辺で遺跡の残存を確認した。



乙宮遺跡（隣接地）調査地位置図



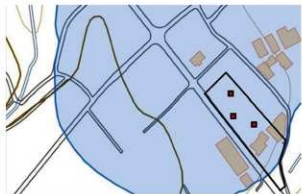
乙宮遺跡（隣接地）西壁面検出ピット状況（東から）

⑧灰ノ久保遺跡【202326】

所在地：島原市有明町大三東甲 1001-2 他

調査面積：12㎡ 調査期間：令和6年3月12日～令和6年3月22日

灰ノ久保遺跡では、3か所の試掘坑で調査を行った。基本層序は、1層（耕作土）、2層（褐灰色土）、3層（灰黄褐色土）、4層（にぶい黄褐色土）、5層（黒色土）、6層（明黄褐色土）、7層（礫層）と整理できる。耕作土から土器片、黒曜石片、陶磁器片、銅貨が出土したが、遺構は確認できなかった。



灰ノ久保遺跡調査地位置図



灰ノ久保遺跡東壁状況

まとめ

今回の調査で遺構や遺物包含層が確認されなかった調査地については慎重に工事を進めることとなった。遺構や遺物包含層が確認された樋ノ迫遺跡、倉子遺跡、乙宮遺跡（隣接地）については、地下に残る埋蔵文化財の取り扱いについて文化財保護部局と事業者との間で協議を行うこととなった。なお、今回試掘・範囲確認調査ができなかった範囲については、令和6年度以降も引き続き調査する必要がある。

【調査担当：濱村、前田、新井、小川、川畑】（文責：濱村）

報告書抄録

ふりがな	ながさきけんまいぞうふんかざいちょうさねんほうさんじゅうに					
書名	長崎県埋蔵文化財調査年報32					
副書名	令和5年度調査分					
巻次	32					
シリーズ名	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書					
シリーズ番号	第51集					
編集機関	長崎県埋蔵文化財センター					
所在地	〒811-5322 長崎県志岐市芦辺町深江鶴亀触515-1 TEL.0920 (45) 4080					
発行年月日	2024年11月30日					
所収遺跡名	所在地	遺跡コード		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町	遺跡番号			
相津遺跡	小値賀町	42383	008	20230523～20230609	29.0	保存目的の範囲確認調査
祝言島遺跡	新上五島町	42411	036	20230615～20230615	1,250.0	施設の設定
早岐瀬戸遺跡	佐世保市	42202	493	20230710～20240322	1019.0	河川
北ノ岡遺跡	雲仙市	42213	-	20230731～20240229	1450.0	道路
下原第1遺跡(仮)	対馬市	42209	-	20230619～20230714	16.0	保存目的の試掘調査
下原第2遺跡(仮)	対馬市		-	20230619～20230714	8.0	保存目的の試掘調査
樫根第1遺跡(仮)	対馬市		-	20230619～20230714	8.0	保存目的の試掘調査
樫根第2遺跡(仮)	対馬市		-	20230619～20230714	8.0	保存目的の試掘調査
文永の役新城古戦場(桶詰城跡)	志岐市	42210	174	20230718～20230808	56.0	保存目的の範囲確認調査
上岡遺跡	雲仙市	42213	-	20230821～20231016	713.0	道路
文永の役新城古戦場	志岐市	42210	174	20230720～20230810	8.0	保存目的の範囲確認調査
文永の役唐人原古戦場(仮)	志岐市		-	20230720～20230810	12.0	保存目的の試掘調査
平野高野遺跡(仮)	雲仙市	42213	-	20230911～20231016	24.0	道路
ヌルヘノクチ遺跡	対馬市	42209	-	20230925～20231013	40.0	保存目的の範囲確認調査
神田原遺跡	島原市	42203	031	20231003～20231017	16.0	道路
樋ノ迫遺跡	雲仙市	42213	-	20231101～20231117	19.0	道路
迫遺跡(仮)	雲仙市	42213	-	20231120～20231219	15.0	道路
岡線遺跡(原の辻遺跡)	志岐市	42210	392	20231127～20231226	60.0	保存目的の範囲確認調査
上熊崎遺跡	雲仙市	42213	228	20231215～20240329	480.0	道路
弥左エ門高野遺跡(仮)	島原市	42203	-	20240124～20240201	18.0	道路
長尾佐遺跡(仮)	雲仙市	42213	-	20240209～20240226	9.0	道路
倉子遺跡	雲仙市	42213	230	20240209～20240314	63.0	道路
水中遺跡分布調査	佐世保市・ 平戸市・松浦市	42202 42207 42208	-	-	-	分布調査
上原遺跡(隣接地)	新上五島町	42411	-	20240226～20240307	25.0	道路
乙宮遺跡(隣接地)	雲仙市	42213	-	20240301～20240327	12.0	道路
辰ノ久保遺跡	島原市	42203	085	20240312～20240322	12.0	道路

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第51集

長崎県埋蔵文化財調査年報 32
〔令和5年度調査分〕

2024年11月30日

発行 長崎県教育委員会
長崎市尾上町3番1号

印刷 株式会社 昭和堂
諫早市長野町1007-2